

令和 7 年版

森林総合研究所九州支所

年報 No.37

Annual Report 2025



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所



Kyushu Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

目次

九州支所における令和6年度研究推進の概要	支所長 勝木俊雄	1
令和6年度研究課題一覧		2
試験研究の概要		6
研究報告		
[チーム長（生物多様性担当）]		
・令和6（2024）年の九州地域の森林病虫獣害発生状況	・佐山勝彦・石原誠・安藤裕萌・安田雅俊	17
[森林生態系研究グループ]		
・iPhone 搭載LiDAR を用いて測定された胸高直径の測定精度	・山川博美	21
[森林資源管理研究グループ]		
・夏木収穫試験地における林分構造の変化	・高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎	23
・仁川第一号収穫試験地における林分構造の変化	・高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎	24
試験研究の成果		
令和6年度の発表業績		25
<資料>		
受託出張		45
受託研修受入		52
海外派遣・出張		53
諸会議		54
当所職員研修		55
図書刊行物の収書数と蔵書数		56
支所視察見学者		56
森林教室「立田山森のセミナー」		57
森林総合研究所九州地域公開講演会開催報告		58
諸行事		59
九州地域評議会報告		61
職員の異動		64
組織図		66
立田山実験林基本図		67
立田山実験林の現況		68
試験地一覧表		70

九州支所における令和6年度研究推進の概要

支所長 勝木 俊雄

森林総合研究所では、研究所の目指す方向として5年ごとに中長期目標を定め、その目標を達成するために中長期計画を立て研究を推進しています。第5期中長期計画（令和3年度～7年度）では、重点課題として（1）環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発、（2）森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発、（3）多様な森林の造成・保全と持続的資源利用に貢献する林木育種の3課題が掲げられています。令和6年度に九州支所においては、第5期中長期計画の目標達成に向けた動きを加速すべく、九州地域において直面している、あるいは将来的に懸念される様々な課題の解決に向け、産学官民の各機関と連携を図りながら、27名の研究員が74の研究課題に取り組みました。

令和6年度の主な研究課題としては、「樹木根の分解と炭素貯留機能の持続性－土壌深度の影響解明と広域評価－」、「林業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価」、「低密度・高密度地域それぞれに対応したニホンジカの誘引・捕獲支援技術の開発」、「国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築」などの20題が研究成果をあげて終了し、新たに「日本と木材輸出相手国の樹木を外来病害虫から護る複合リスク緩和手法の開発」、「非破壊測定手法を用いた材分解促進イベントの実証」、「地図指摘法を用いた森林所有者の森林空間情報の認知状況の把握」などの11課題がスタートしました。

九州支所では令和6年度に学術論文、学会発表、講演会、機関誌等を通じて、研究成果を220件の研究論文等に発表しました。また、九州支所のホームページやYouTube 森林総研チャンネルなど、インターネットを利用した情報発信にも努めて参りました。その他、多くの研究者が国や地方自治体の行政機関や試験研究機関をはじめとする各関係機関からの要請により学識経験者あるいは専門家として様々な会議や委員会、現場での実証試験等に参加して連携・協力、一般向けセミナー等を通じた地域社会への貢献など様々な形で研究成果の橋渡しを行いました。本報告21は、九州支所が令和6年度に行ったこれらの研究活動、業務内容をまとめたものです。

九州地域では、人工林の伐採・再造林が大規模に進みつつある半面、伐採後の林地管理や苗木生産、林業に関わる関係者の高齢化といった問題も顕在化しつつあります。また、気候変動による影響は、確実に九州地域の森林でも強くなりつつあります。九州支所はこれからもめまぐるしく変化する社会情勢に柔軟に対応しつつ、地域の関係諸機関との連携協力のもと研究活動を推進し、農林水産業界をはじめ国民の皆様への研究成果の「最大化」と「社会還元」を心がけ、地域におけるハブ機能を発揮して参ります。

今後とも当支所へのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和6年度研究課題一覧

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
1	重点課題	環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発	3 ～ 7			
1ア	戦略課題	気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7			
1アa	基幹課題	温室効果ガスの吸収・排出量の算定方法改善と気候変動影響評価手法の精緻化	3 ～ 7			
1アa1	実施課題	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発	3 ～ 7	酒井 佳美 稲垣 昌宏 鳥山 淳平 森 大喜 北村 兼三		
1アaPF24	外部プロ課題	樹木根の分解と炭素貯留機能の持続性ー土壌深度の影響解明と広域評価ー	元 ～ 6	酒井 佳美	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF31	外部プロ課題	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	3 ～ 7	酒井 佳美 稲垣 昌宏 鳥山 淳平	政府等受託【公募】	林野庁
1アaPF35	外部プロ課題	近接・衛星センシングと深層学習を駆使した土壌特性マップ群の創出	4 ～ 6	稲垣 昌宏	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF37	外部プロ課題	酵素反応を考慮した土壌炭素分解モデル構築に向けて～酸化酵素活性の制御要因の探索～	4 ～ 6	森 大喜	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF41	外部プロ課題	気候変動がもたらす生態系攪乱が森林の炭素吸収量に与える影響の長期広域観測とリスクマップの構築	4 ～ 8	北村 兼三	政府等受託【公募】	環境省
1アaPF43	外部プロ課題	熱帯林生態系のリン制限仮説の再検証：新たなパラダイムの創出	4 ～ 7	森 大喜	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF53	外部プロ課題	世界の森林土地利用変化が引き起こす土壌炭素蓄積量の時空間変化	6 ～ 8	鳥山 淳平	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF54	外部プロ課題	非破壊測定手法を用いた材分解促進イベントの実証	6 ～ 9	酒井 佳美	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF55	外部プロ課題	山地の表層炭素動態の包括的モデリングによる過去1万年の土壌炭素吸排出史の解明	6 ～ 8	鳥山 淳平	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF59	外部プロ課題	地上観測およびデータ駆動型モデルを用いた森林土壌GHG交換量の評価に関する研究	6 ～ 10	森 大喜	政府等外受託【競】	環境再生保全機構
1アaPS2	交プロ課題	マイナスエミッションに向けた土壌メタン吸収の広域算定手法の開発	4 ～ 7	森 大喜	交付金プロ	-
1アb	基幹課題	気候変動緩和・適応のための多様な森林機能の活用	3 ～ 7			
1アbPF10	外部プロ課題	林業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価	2 ～ 6	鳥山 淳平	政府等外受託【競】	環境再生保全機構
1アbPF12	外部プロ課題	森林技術国際展開支援事業	2 ～ 6	森 大喜 黒川 潮	政府等受託【公募】	林野庁
1イ	戦略課題	森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発	3 ～ 7			
1イa	基幹課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7			
1イa1	実施課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	勝木 俊雄 山川 博美		
1イaPF30	外部プロ課題	鳥類標本の羽から探る生態と種分化	3 ～ 7	小高 信彦	科研費【競】	日本学術振興会
1イaPF53	外部プロ課題	急激な気候変動による東アジア森林ベルトの生態系の変化を新しい統合モデルで予測する	6 ～ 8	山川 博美	科研費【競】	日本学術振興会
1イb	基幹課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7			
1イb1	実施課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	金谷 整一		
1イc	基幹課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究開発	3 ～ 7			
1イc1	実施課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3 ～ 7	佐山 勝彦 安田 雅俊 小高 信彦 鈴木 圭 東川 航		
1イcPF31	外部プロ課題	生態系ネットワークを介する物質動態に着目した流域環境の評価手法の開発	5 ～ 9	東川 航	科研費【競】	日本学術振興会
1イcPF32	外部プロ課題	菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への挑戦	5 ～ 9	金谷 整一	科研費【競】	日本学術振興会

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
1イk1	基盤課題	長期観測試験地に基づいた森林動態のモニタリング	3～7	山川 博美		
1イk2	基盤課題	森林生態系の質的・量的劣化の早期把握を目指した長期モニタリング	3～7	野宮 治人 山川 博美	政府等外 受託	(一財)自然 環境研究セ ンター
1ウ	戦略課題	森林保全と防災・減災に向けた研究開発	3～7			
1ウa	基幹課題	森林における水・物質循環の機構解明と環境保全機能の評価技術の開発	3～7			
1ウa1	実施課題	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	3～7	壁谷 直記 村上 茂樹		
1ウaPF11	外部プロ課題	自然環境下のオゾン濃度の漸増が熱帯季節林の水利用効率に及ぼす影響の解析	2～6	壁谷 直記	科研費 【競】	日本学術振 興会
1ウaPF27	外部プロ課題	大気中のCO2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？	5～9	壁谷 直記	科研費 【競】	日本学術振 興会
1ウb	基幹課題	極端な気象現象に対応した山地・気象災害の軽減技術の開発	3～7			
1ウb1	実施課題	森林の山地・気象災害軽減技術の高度化	3～7	黒川 潮		
1ウbPS4	交プロ課題	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	勝木 俊雄 酒井 佳美 稲垣 昌宏 野宮 治人 山川 博美 鳥山 淳平 山岸 極 黒川 潮 木下 晃彦 中村 慎崇 東川 航	交付金プロ	
1ウk1	基盤課題	森林における降水と渓流水質のモニタリング	3～7	稲垣 昌宏		
1ウk2	基盤課題	森林水文モニタリング	3～7	黒川 潮		
1ウk3	基盤課題	森林気象モニタリング	3～7	北村 兼三		
2	重点課題	森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発	3～7			
2ア	戦略課題	林産物の安定供給と多様な森林空間利用の促進に資する研究開発	3～7			
2アa	基幹課題	維持管理コストの低い森林造成に向けた造林・育林技術の開発	3～7			
2アa1	実施課題	造林・育林技術の実証とシーズ創出に向けた研究開発	3～7	野宮 治人 八本 貴信 山川 博美 山岸 極		
2アaPF7	外部プロ課題	樹木はどのように葉面から水分を獲得するか？葉面吸水を組込んだ樹木応答モデルの構築	3～7	安藤 裕萌 福本 桂子	科研費 【競】	日本学術振 興会
2アaPF13	外部プロ課題	被圧の即時効果と波及効果の分離評価に基づく生態学的な下刈り省略・終了基準の構築	5～9	山川 博美 山岸 極	科研費 【競】	日本学術振 興会
2アaPF14	外部プロ課題	日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発	5～9	山川 博美	政府等受 託【公募】	農林水産省
2アaPF20	外部プロ課題	地域デザインのためのインクルーシブ・データプラットフォームの構築	6～6	酒井佳美	政府等外 受託【競】	国立情報学 研究所
2アaPF22	外部プロ課題	育成複層林への誘導方法に関する評価等委託事業	6～6	野宮治人	政府等受 託【公募】	林野庁
2アaTF3	事業・助成課題	人工林伐採跡地のUAVによる人工播種技術の開発	5～7	勝木 俊雄 山川 博美	政府等外 受託	西臼杵林業 活性化協議 会
2アb	基幹課題	森林資源の持続的利用に向けた林業生産技術の開発	3～7			
2アbPS7	交プロ課題	伐倒時の倒伏メカニズムに基づいた伐倒技能の評価手法の構築	4～6	福本 桂子 笹田 敬太郎	交付金プロ	
2アc	基幹課題	森林資源・空間の持続的な利用のための評価・計画・管理技術の開発	3～7			

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
2アc1	実施課題	持続的な林業経営および森林空間利用のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7	高橋 與明 近藤 洋史 福本 桂子		
2アcPF12	外部プロ課題	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3 ～ 7	八木 貴信 山川 博美 黒川 潮 高橋 與明 福本 桂子	政府等受託【公募】	農林水産省
2アcPF13	外部プロ課題	雑草木の成長・再生速度の解明：林業における初期保育への応用	4 ～ 6	福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アcPF20	外部プロ課題	令和5年度森林情報の高度化推進に向けた手法検討に関する調査委託事業	5 ～ 6	近藤 洋史	政府等受託【公募】	林野庁
2アcPF21	外部プロ課題	高頻度衛星データを利用した日本の森林蓄積量とその変動の解明	6 ～ 9	福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アcPF22	外部プロ課題	Cost-plus-loss分析による適切な森林調査手法の選択	6 ～ 8	福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アcTF8	事業・助成課題	ドローンレーザ測量による効率的な収穫調査の高度化	5 ～ 6	高橋 與明	寄付・助成金・共同研究	(一財)日本森林林業振興会
2アド	基幹課題	健全な林業経営確立、山村地域振興、持続的な木材利用、新たな木材需要創出に資する方策の提示	3 ～ 7			
2アド1	実施課題	多様化する森林との関わりを支える社会経済的・政策的方策の提示	3 ～ 7	笹田 敬太郎		
2アドPF13	外部プロ課題	科学的林業の受容と変容に関する国際比較研究：現場森林官が持つ仕事観に着目して	4 ～ 7	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アドPF15	外部プロ課題	変貌する日本林業のマイクロデータ分析：農林業センサスと国勢調査を用いて	4 ～ 7	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アドPF19	外部プロ課題	地図指摘法を用いた森林所有者の森林空間情報の認知状況の把握	6 ～ 8	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アドPS3	交プロ課題	EBPM実現のための森林路網B/C評価ツールの開発と社会実装	3 ～ 6	笹田 敬太郎	交付金プロ	
2アk1	基盤課題	収穫試験地における森林成長データの収集	3 ～ 7	近藤 洋史 高橋 與明 福本 桂子		
2イ	戦略課題	生物特性を活用した防除技術とときのこ等微生物利用技術の開発	3 ～ 7			
2イa	基幹課題	森林・林業・林産物に対する病虫獣害軽減技術体系の開発	3 ～ 7			
2イa1	実施課題	樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3 ～ 7	勝木 俊雄 石原 誠 安藤 裕萌		
2イa3	実施課題	森林林業害獣の実効的防除技術の開発	3 ～ 7	鈴木 圭		
2イaPF19	外部プロ課題	マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発	2 ～ 6	安藤 裕萌	政府等外受託【競】	(国研)科学技術振興機構
2イaPF42	外部プロ課題	With / Postナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築	4 ～ 6	近藤 洋史	政府等外受託【競】	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター
2イaPF49	外部プロ課題	マツ枯れから侵入種・樹木病害・農業線虫まで：昆虫病原性線虫の共生細菌による防除	5 ～ 7	安藤 裕萌	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF50	外部プロ課題	土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発	5 ～ 7	木下 晃彦	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF51	外部プロ課題	侵入樹木病原菌スギ赤枯病菌の全ゲノム配列の解読と遺伝的多様性の解明	5 ～ 7	安藤 裕萌	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF61	外部プロ課題	日本と木材輸出相手国の樹木を外来病害虫から護る複合リスク緩和手法の開発	6 ～ 10	佐山 勝彦 安藤 裕萌 東川 航	政府等受託【公募】	農林水産省
2イaPF63	外部プロ課題	令和6年度高度な森林鳥獣被害防除手法の標準化推進事業	6 ～ 6	山川 博美	政府等受託【公募】	林野庁

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
2イaPS7	交プロ課題	低密度・高密度地域それぞれに対応したニホンジカの誘引・捕獲支援技術の開発	4 ～ 6	山川 博美 森 大喜 鈴木 圭	交付金プロ	
2イaPS10	交プロ課題	種子・苗木病害の診断技術および防除法の高度化	5 ～ 7	安藤 裕萌	交付金プロ	
2イaPS11	交プロ課題	日本型システムアプローチの構築 -外来種から森林・樹木を護り木材輸出時の環境負荷を軽減する-	5 ～ 7	安藤 裕萌	交付金プロ	
2イb	基幹課題	きのこ等微生物の特性解明と生産利用技術の開発	3 ～ 7			
2イb1	実施課題	きのこ等微生物の特性解明と生産性及び有益性向上技術の開発	3 ～ 7	木下 晃彦 中村 慎崇		
2イbPF13	外部プロ課題	国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築	4 ～ 6	木下 晃彦 中村 慎崇	政府等外 受託【競】	(国研)農業・ 食品産業技 術総合研究 機構 生物系特定 産業技術研 究支援セン ター
2イbPF14	外部プロ課題	着実な林地栽培に向けた菌根菌バカマツタケの有機物分解能と厚壁胞子形成能の有効性	5 ～ 7	中村 慎崇	科研費 【競】	日本学術振 興会
2イbTF1	事業・助成課題	国産トリュフ共生苗木の定着条件解明に向けた植栽試験	3 ～ 6	木下 晃彦	寄付・助成 金・共同研 究	三菱マテリア ル(株)
2ウ	戦略課題	木材利用技術の高度化と需要拡大に向けた研究開発	3 ～ 7			
2ウa	基幹課題	用途に応じた木材製品の安定供給に向けた特性評価及び加工技術の開発	3 ～ 7			
2ウa2	実施課題	大径材の効率的加工・流通システムの開発と国産早生樹の加工適性の解明	3 ～ 7	伊神 裕司		
2ウaPF15	外部プロ課題	早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発	4 ～ 6	伊神 裕司	政府等外 受託【競】	(国研)農業・ 食品産業技 術総合研究 機構 生物系特定 産業技術研 究支援セン ター
2ウaPF21	外部プロ課題	大径材の活用による国産材製品の安定供給システムの開発	5 ～ 7	伊神 裕司	政府等受 託【競】	農林水産省
2ウb	基幹課題	非住宅・中高層建築物等への木質材料利用拡大に向けた利活用・維持管理技術の開発	3 ～ 7			
2ウbTF1	事業・助成課題	家庭用シロアリベイト材を用いた効果的施用方法に関する研究	30 ～	酒井 佳美	政府等外 受託	アース製薬 (株)
2エ	戦略課題	木質新素材と木質バイオマスエネルギーの社会実装拡大に向けた研究開発	3 ～ 7			
2Eb	基幹課題	木質バイオマスエネルギーの供給とエネルギー利用拡大に向けた技術の開発	3 ～ 7			
2エaPF26	外部プロ課題	針葉樹樹皮のエシカルプラスチック等への原料化	4 ～ 8	伊神 裕司	政府等受 託【競】	農林水産省
2EbPF5	外部プロ課題	ヤナギ超短伐期施業技術を活用した木質バイオマス燃料供給体制構築の実証事業	5 ～ 6	佐山 勝彦 石原 誠	政府等外 受託【競】	(国研)新エネ ルギー・産業 技術総合開 発機構(NED O)

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1アa1	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動 影響の評価と予測技術の開発	3～7	交付金	
執筆者名	森大喜			
研究の概要	熱帯林土壌の微生物活性はリンによって制限されていると考えられており、リン施肥による土壌呼吸の増加がその証拠とされてきた。しかし、我々は先行研究において、リン施肥による土壌呼吸の増加は微生物のリン欠乏に起因するものではなく、土壌粒子表面に吸着した炭素がリンと非生物的に入れ替わることによって微生物の炭素利用性が向上することに起因すると主張してきた。本研究では、我々の仮説を補強するため、リン施肥によって土壌呼吸が増加することが既に報告されている中国の亜熱帯森林で、リン施肥がリターの初期分解に与える影響を評価した。本研究では、(1)リン施肥のリター分解に対する影響を土壌中において評価するため、および(2)リターの後期分解ではなく初期分解のみを評価するため、現場で採取したリターではなくティーバッグを材料とした。従来の見解に基づけば、リン施肥によってリターの初期分解は土壌呼吸同様に促進されるはずだが、本実験ではリン施肥によるリター分解の促進は見られず、我々の仮説が支持された。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1アa1	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動 影響の評価と予測技術の開発	3～7	交付金	
執筆者名	北村兼三			
研究の概要	森林気象の長期モニタリングデータを整備し、森林－大気間の物質交換過程を把握し評価することを目的とする。鹿北流域試験地の二酸化炭素動態観測施設を利用して森林の熱収支、CO₂フラックスおよび気象値などの連続データを取得した。植物起源揮発性有機ガス(BVOC)のサンプル採取を行いBVOCのサイト横断的な観測の一部を担った。 アメダス日照時間データを用いて日射量の欠測補間方法を検討した。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1アaPF24	樹木根の分解と炭素貯留機能の持続性 －土壌深度の影響解明と広域評価－	元～5→6	科研費 【競】	日本学術振興 会
執筆者名	酒井佳美			
研究の概要	樹木根分解過程を解明するために2種の方法を開発した；①近赤外ハイパースペクトラルイメージングを用いた土壌深さに沿った連続的な材分解過程の解析手法、②2種の標準試料（四割材、疑似材）による樹木根分解試験法である。これらの手法は市販のスギ材を分解試料として使用し、通常の樹木根を扱う試験設計上の作業の軽減と初期条件の均一化による誤差要因の低減化を可能にする。また、日本の広域（平均気温5～15℃の範囲）での四割材を使用した樹木根分解試験の結果、分解定数は0.04～0.35 (year⁻¹) と算出され明瞭な地域間差が明らかにした。分解速度への主たる影響要因は気温であるが、土壌の深さ、および温暖な地域でのシロアリ等の食材性昆虫の影響も明らかとなった。本課題で得られた日本の森林における樹木根分解への影響要因と分解速度、および分解材に関する実測データの蓄積は、これまでブラックボックスであった森林土壌中での木質有機物分解と炭素動態の解明に貢献し、地球温暖化への適応策作成に資する成果である。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1アaPF31	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	3～7	政府等受託 【公募】	林野庁
執筆者名	稲垣昌宏			
研究の概要	同一地点で伐採～造林後20年間の炭素量の変化を調べることを目的として、2002年に調査が行われ、その後伐採・再造林された大分県玖珠郡九重町のヒノキ林を対象に、2023年11月に多点の土壌と堆積有機物、下層植生のサンプリングを行った。21年前と可能な限り同じ地点から、同じ手法で調査を行った。40m x 40mの範囲から4mごとに土壌を表層から3層位で採取した。300点の土壌サンプルおよび20点ほどの堆積有機物および下層植生サンプルを調整し、現在分析に供している。同様な調査を、すでに秋田、長野、広島にて実施しており、これらの結果を統合して同一地点での土地利用変化に伴う炭素蓄積量の変化を解析する。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1AbPF10	林業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価	2～6	政府等外受託 【競】	環境再生保全機構
執筆者名	鳥山淳平			
研究の概要	スギ人工林の面積・齢級の推移が炭素吸収量と生態系サービスに及ぼす影響を全国レベルで明らかにするため、4つの異なる再造林シナリオを設定し、プロセスモデルによる予測を行った。再造林シナリオでは、2010年から2050年にかけてスギ林面積の16%が広葉樹二次林に置き換わり、残存スギ林の平均林齢が44.4年から72.0年に増加した。純生態系生産量（炭素吸収量の指標）と2種類の森林生態系サービス（表層崩壊防止と広葉樹種の生息域提供）のトレードオフについて、プロセスモデルによる解析を行った結果、南日本ではスギの伐採率・再植林率がともに高い森林管理が、気候変動適応策として推奨された。これに対し、北日本では伐採・再植林率の低い森林管理も実行可能なオプションとして示された。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1IaPF30	鳥類標本の羽から探る生態と種分化	3～7	科研費 【競】	日本学術振興会
執筆者名	小高信彦			
研究の概要	博物館等に収集・保管されている生物標本を用い、1)鳥類標本の学術的価値を維持した羽試料の採取方法の確立、を基盤とし、羽試料の安定同位体分析から、2)国内に広域分布する鳥類における種内（地域間）・種間（亜種間）比較による渡り特性と食性の違い、3)南西諸島の島嶼で独自の進化を遂げた希少鳥類の種分化と食性の関係の解明を通じ鳥類標本の新たな学術的価値の創出から実証研究の構築までを目指す。今年度は、中琉球に生息する固有鳥類の羽標本の収集を進めるとともに、中琉球の固有鳥類であるアマヤマシギやオオトラツグミ、オーストンオオアカゲラ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ等の生態を明らかにするため、奄美大島、徳之島、沖縄島に設置している自動撮影カメラのデータ収集、解析、整理を行った。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1イb1	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	金谷整一			
研究の概要	日本の主要樹種および各気候帯における代表的な森林生態系において、森林施業等や環境変動に対する遺伝子、種及び生態系の多様性の応答を解明し、その変化を予測することが必要である。本研究は、冷温帯域の主要樹種であるブナを対象に、分布南限域にあたる紫尾山において、各地で被害が増大しているシカ被害の影響を明らかにすることを目的として実施した。調査は、5つの植生保護柵区および1つの比較対照区を設置し、柵内外の草本層における維管束植物の分布状況を比較した。植物種数および植被率は、設置年数が古い（長い）ほど多く（高く）なる傾向があり、対照区が最も少な（低）かった。設置年数が新しい（短い）調査区ほど、シカの不嗜好性植物の優占度が高かった。また、設置年数が古い（長い）ほど多くの稀少種が記録され、下層植生の保全に対する保護柵設置の効果が示唆された。しかしながら、当該林分の林冠層構成種であるブナやアカガシの分布はわずかであり、今後も林分構造の推移を継続して調査していく必要性が認められた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1イc1	森林持続森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	安田雅俊			
研究の概要	特定外来生物クリハラリスの防除では、大分県高島におけるモニタリングに取り組んだ。2024年春と秋の集中捕獲調査ではクリハラリスは捕獲されず、外来種クマネズミとドブネズミが捕獲された。また、自動撮影カメラによるモニタリングではクリハラリスは撮影されなかった。すなわち、2022年春の3頭の捕獲を最後に、3夏を越える期間にわたりクリハラリスの生息が確認されなかったため、高島における地域根絶は達成されたとみられる。熊本県宇土半島では2022年度に捕獲数が初めて0頭となったが、2023年度はメス1頭が捕獲された。2024年度も捕獲数はメス1頭であった。新たに定着が確認された大分県別府市のクリハラリス個体群については、行政による防除の取り組みに協力している。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2イaPS7	低密度・高密度地域それぞれに対応したニホンジカの誘引・捕獲支援技術	4～6	交付金プロ	
執筆者名	鈴木圭			
研究の概要	過剰に増えすぎたニホンジカを効率的に減らすためにはメスの捕獲が重要であり、昨年度までに食塩水を用いたメス誘引手法を開発した。今年度は当手法を用いて、より効果的に誘引できる季節を調べた。その結果、メスは1年を通して食塩水に誘引されるものの、4月初旬から7月中旬にかけて特に良く誘引されることがわかった。この期間は、シカの出産・授乳期に当たり、シカ乳にはナトリウムが多量に含まれることから、食塩水を頻繁に摂取したと考えられる。当手法を春から初夏にかけて用いることで、より効率的にメスを誘引捕獲できる可能性がある。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1イcPF31	生態系ネットワークを介する物質動態に着目した流域環境の評価手法の開発	5~9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	東川航			
研究の概要	小さな虫などを捕食する里山の赤トンボ3種（アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ）の成虫は、夏季は主に森林、秋季は主に草原で生活するため、季節によって利用する餌生物の栄養源（森林由来または草原由来）が異なると考えられる。植物体の平均的な炭素安定同位体比$\delta^{13}\text{C}$の値が一般的に森林<草原となることから、赤トンボ個体の$\delta^{13}\text{C}$値は季節的な栄養源利用（森林vs草原）を反映して変化すると考えられる。本研究では、当該3種および草原性の近縁種ミヤマアカネを対照に加えた計4種について、夏季と秋季に採集した数個体の複数組織を抽出し、試験的に$\delta^{13}\text{C}$値を計測した。サンプル数の少なさから、夏季に森林を利用する3種では季節的な栄養源利用のシフトの検出には至らなかったが、成虫期における$\delta^{13}\text{C}$の挙動は草原性種の場合とは明らかに異なるパターンを示し、森林由来の栄養源に強く依存する可能性が示唆された。今後、サンプルを追加して解析を進めることで、各種の栄養源利用の季節変化を検出できる可能性がある。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウa1	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	5~9	交付金	
執筆者名	壁谷直記			
研究の概要	森林総合研究所九州支所構内（熊本市）で自作した時間別降雨採取装置を用いて、2021年6月に2回の降雨イベントに関する降雨サンプルを採取し、その酸素・水素安定同位体比を測定した。これらは2つの降雨イベントは、総降水量20mm程度、降雨継続時間は半日程度で、同程度の規模であった。このうち、6月15~16日の降雨イベントでは、降雨継続時間に従って徐々に酸素・水素安定同位体比は低下する変化が見られた。一方で、6月18~19日の降雨イベントでは、降雨継続時間に従って徐々に上昇する変化がみられた。前者は、一つの水蒸気起源から連続して重い水分子を含む水蒸気からより優先的に雨滴となる同位体分別が生じるという、単純なレイリー蒸留モデルによって説明可能であると考えられた。一方、後者は、このモデルでは説明できないため、降雨イベント中に、水蒸気起源が入れ替わるなどより複雑な降水過程が生じていると考えられた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウa1	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	3~7	交付金	
執筆者名	村上茂樹			
研究の概要	森林に降る雨の約2割は、地面に到達することなく蒸発して大気に戻る。この現象を遮断蒸発と呼ぶ。定説では、遮断蒸発は濡れた樹冠表面からの蒸発とされているが、Murakami（2024; DOI:10.2139/ssrn.5007516）は雨滴が樹冠にぶつかって生じる飛沫の蒸発が主なメカニズムであることを示した。2024年1月~7月に、樹高10mのスギ林において樹冠下の3地上高で遮断蒸発を測定した。雨量に占める遮断蒸発の割合は、高さ0.8m、2.8m、3.8mでそれぞれ23.8%、11.8%、0.2%であり、枝葉がほとんどない高さ3.8m以下で遮断蒸発の大部分が発生していた。高さ0.8mと3.8mでは遮断蒸発の季節変化が見られなかった。2.8mでは1月~3月は3.8mと同様に遮断蒸発はほとんどゼロだったが、4月以降には徐々に増加して7月には20.1%となり、同月の0.8mの値、21.5%とほぼ同じになった。飛沫が落下中に蒸発・消滅するまでの落下距離は高温になるほど短くなる。高さ2.8mのみが季節変化を示す理由は、この温度依存性で説明できそうなことが分かった。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウaPF27	大気中のCO2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？	5～9	科研費 【競】	文科省
執筆者名	壁谷直記			
研究の概要	鹿北流域試験地1号沢においてスマートボーラーを用いて同位体年輪解析を行うための73年生スギ人工林の11個体（DBH26～54cm）から年輪サンプルを採取した。また、カンボジア王国クラチェ州において25年生のチーク人工林（DBH36～45cm）程度のサイズの5～6個体から生長錐を採取可能する予定である。以上の年輪サンプルは、今後年輪幅や炭素、酸素安定同位体比等を分析することで過去の気候履歴および樹木の水利利用特性に関する情報が得られる予定である。さらに、これらの同位体年輪情報から復元した蒸散量と長期水文気象データから計算した蒸発散量との比較することで2つの手法のクロスチェックを行う予定である。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウb1	森林の山地・気象災害軽減技術の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	黒川潮			
研究の概要	九州で発生した山地災害について発生原因等の情報を収集するため、今年度発生した事象について現地調査を実施した。長崎県南島原市では5月、最大24時間降水量95mm（長崎県白木野観測局）の雨をきっかけに地すべりが発生した。地すべりの規模は幅約100m、長さ約200mで、最大崩壊深は約12mであった。当地区は地すべり防止区域に指定されており、通常想定される地すべりの深さは3m程度であるが、地すべり地における難透水の泥岩層が今回発生した地すべり地内でなくなっており、従来よりも深い地すべりが発生したと考えられる。8月末の台風10号により、大分県別府市、由布市において大規模な土砂流出が発生した。アメダス湯布院では最大1時間降水量75.5mmを観測し、観測史上1位の値を更新した。土砂流出地上流において新たな崩壊等は確認できなかったため、平成24年7月九州北部豪雨時に堆積していた不安定土砂が再移動し、下流に被害を及ぼしたものと推定される。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウbPS4	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金プロ	
執筆者名	佐山勝彦			
研究の概要	小課題名：再生した広葉樹林の林分構造の発達過程の解明 シイ・カシ類の定着や成長に必要な外生菌根菌の胞子散布に昆虫類が寄与している可能性を明らかにするため、昆虫類に外生菌根菌のキノコを摂食させる実験を行い、排泄された糞の中に菌根菌の胞子が含まれているかどうかを確認する。今年度は、昨年度に確立した飼育法のもと、キノコを餌のひとつとするセンチコガネ（コウチュウ目）を対象にして、9月下旬から10月中旬に野外で捕獲した個体をキノコの摂食実験に導入した。捕獲した個体はおがくずを敷きつめたプラスチック製容器で飼育し、キノコを給餌するとき以外は、餌として昆虫用ゼリー（主成分は糖類）を常時与えた。キノコを給餌してから数日後に、センチコガネをだけを隔離して排泄された糞を回収し、糞のなかの胞子の有無を確認した。また野外では、キノコの近くの林床土中に穴を掘り、キノコを摂食するセンチコガネを確認した。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウbPS4	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金プロ	
執筆者名	野宮治人			
研究の概要	小課題1：再生した広葉樹林の林分構造の発達過程の解明 針葉樹人工林の皆伐跡に再生した広葉樹林のうち、伐後7年の1林分（7調査区）と伐後20年の2林分（6調査区）で林分調査を実施した。林分を構成する地際径3cmを超える広葉樹のうちアカメガシワが最も多く確認された。アカメガシワは、伐後7年の林分では平均本数で50%、平均基底面積で41%となり、構成種の第一位であった。また、伐後20年になっても構成種の第一位を維持しており、平均本数は26%に低下したものの、平均基底面積は54%であった。さらに、伐後20年の林分では、アカメガシワと同じく先駆性樹種のカラスザンショウとヌルデが平均本数で第二位と三位であった。これまでのところ、皆伐直後に侵入してきたアカメガシワを代表とする先駆性樹種が、伐後20年が経過した林分においても依然として高い比率で存在している傾向がみられた。その一方で、九州地域の常緑広葉樹林を形成するシイ・カシ類はほとんど確認されなかった。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1ウbPS4	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金	
執筆者名	木下晃彦			
研究の概要	人工林伐採跡地に再生した広葉樹林を対象として、動物による外生菌根菌（以下、菌根菌）の胞子移入の検証を行うことを目的とする。 九州山地の極相林を形成するシイ・カシ類の定着や成長には、外生菌根菌との共生が重要であるが、スギやヒノキの針葉樹人工林には菌根菌が少ないとされている。広葉樹林内で菌根菌の子実体を採食したシカや昆虫が、伐採跡地に移動して菌根菌の胞子を含んだ糞をすることで、菌根菌の胞子散布に寄与している可能性がある。そこで野外環境および飼育下のシカや昆虫に菌根菌の子実体を採食の確認とともに、糞中に菌根菌の胞子が含まれるか検証した。野外調査において採取された菌根菌の子実体を摂食するシカ及び昆虫の糞について、菌根菌の胞子の確認および次世代シーケンサーを用いた菌叢解析を行った。その結果、複数の菌根菌のDNAが検出され、糞中からも胞子を確認した。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アaPF13	被圧の即時効果と波及効果の分離評価に基づく生態学的な下刈り省略・終了基準の構築	5～9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	山川博美			
研究の概要	下刈り作業の省力化は再造林コストの削減において重要な課題となっており、多くの研究が行われている。そのなかで、下刈り要否の判断基準は、植栽木と雑草木の高さ方向の競争関係を4段階で簡便に表した指標（競合状態；C1～C4）と樹高を組み合わせで評価されている。しかし、競合状態は簡易的な指標であるため、植栽木と雑草木の競争関係の評価には限界がみえてきた。そこで、植栽木に対する被圧の影響をより詳細に明らかにするため、スギの樹冠に対する被圧割合を目視によって10%単位で観察し、被圧樹冠と解放樹冠が植栽木の成長に与える貢献度を解析した。下刈り後1年間の成長量を解析すると、被圧樹冠の成長への貢献度は解放樹冠の7割程度と推定された。今回の結果は、下刈り後1年間の結果であるため、被圧期間や競争植生の違いによって、被圧樹冠の貢献度が異なる可能性も考えられる。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アaPF13	被圧の即時効果と波及効果の分離評価に基づく生態学的な下刈り省略・終了基準の構築	5～9	科研費 【競】	日本学術振興会
執筆者名	山岸極			
研究の概要	下刈りの省力化は林業経営において喫緊の課題である。下刈り要否の判断基準は競合関係に基づく指数で示されているが、生態学的根拠が薄い点や近年導入され始めた育種成果品に対応できない点で問題がある。本課題では、エリートツリー等の育種成果品導入時の下刈り回数の削減・終了のタイミングを樹冠発達過程の生態学的根拠に基づいて理論的に予測する。令和6年度は、当年部伸長した幹の幹長から幹に着生する枝の分布および量を推定するために、下刈り省略試験地の特定母樹品種4系統の植栽木の測定データを基に解析を行った。その結果、当年部幹長から枝の分布や量を正確に推定することは困難であった。ただし、梢端からの長さや累積枝量の関係に基づくおよその枝量の高さ分布の推定は可能であることが明らかとなった。また、梢端からの距離と累積枝量の関係は品種間で異なることから、枝量の高さ分布推定時には品種の影響を考慮する必要性も示唆された。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アaTF3	人工林伐採跡地のUAVによる人工播種技術の開発	5～7	政府等外受託	西白杵林業活性化協議会
執筆者名	勝木俊雄			
研究の概要	UAVによる播種が予定されている宮崎県西白杵地域の高千穂町と日之影町において、2023年に採取した32種の種子を用いて発芽条件を検討したところ、吸水させて高温環境にすると発芽する種、8週間の低温湿層処理後の高温環境で発芽する種、低温と高温を2回繰り返すことで発芽率が高まった種などが確認された。この結果、11種について、発芽条件が明らかとなり、UAV播種用植物として利用可能であると考えられた。また、UAVによる播種がより効果的なエリアを抽出するため、DISco（シカ影響スコア）によるシカ影響度調査を行い西白杵地域内のシカ影響度マップを更新した。また、シカ影響度の異なる3箇所の伐採跡地にシカ防護柵を設置し、防護柵内外の植生回復状況を観察した。シカ影響度の低い箇所（DISco 3程度）では、防護柵内外で植生の更新状況に大きな違いはなかった。一方、シカ影響度の高い箇所（DISco 8以上）では、防護柵の外側で植生がほとんど更新しておらず、更新補助などの対策が必要になったことが明らかとなった。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アc1	持続的な林業経営および森林空間利用のための評価・計画・管理技術の開発	3～7	交付金	
執筆者名	近藤洋史			
研究の概要	持続的な林業経営のためには、高齢林の予測精度の向上・予測情報の精緻化・生態学的プロセスを組み込んだ成長モデルの開発など、多くの課題が山積している。そこで、主要林業樹種の成長モデル・収穫予測モデルを高度化するとともに、新たな計測・情報技術を用いた森林資源評価手法および森林計画策定支援手法を開発することを研究目的としている。本年度、宮崎森林管理署夏木国有林（宮崎県小林市）に所在し長期継続調査を行っている夏木ヒノキ収穫試験地、および熊本森林管理署仁川国有林（熊本県熊本市）に所在する仁川1号ヒノキ収穫試験地について、森林資源量調査を実施する。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アcPF12	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3～7	政府等受託 【公募】	農林水産省
執筆者名	八木貴信			
研究の概要	森林経営管理制度の下、管理不足な私有人工林の経営管理権集積が進められつつある。対象の私有林は管理不足で過密状態にあると考えられるが、その実態を現地データに基づき詳細に検討した事例は少ない。これらの森林を防災などの多面的機能が発揮されるよう適切に管理するには、データに基づく森林構造の把握、それを踏まえた間伐方法の検討が重要である。本研究は、当支所が熊本市と締結している「森林整備・活用及び森林研究に関する連携協定」の下、熊本市が市町村森林経営管理事業実施のために対象私有林で行った標準地調査データを解析し、実際の事業対象の管理不足人工林について森林構造と間伐方法を定量的に検討した。森林構造として立木の幹形状比の頻度分布に注目し、林分混み合い度を示す相対幹距比に応じた幹形状比分布の変化を定量化した。この変化パターンを踏まえ、慣行的な下層間伐については30%、40%、50%本数間伐率それぞれの得失を検討し、単木管理型間伐については将来木の存在確率からその実行可能性を検討した。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アcPF12	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3～7	政府等受託 【公募】	農林水産省
執筆者名	高橋與明			
研究の概要	手入れ不足でなおかつ山地災害発生の危険度が高い民有林人工林をALS（航空レーザ測量）データを用いて抽出する一連の解析処理表示手法を開発することが最終目標の一つである。昨年度までに経営管理状態を表す指標としての平均樹冠長率（Crown Ratio）と樹冠疎密度（Canopy Cover）をALSデータから精度良く推定する方法を開発していたが、その方法よりも優れた方法を本年度新たに開発した。そして、茨城県常陸太田市と福岡県久留米市のスギ・ヒノキの民有林を対象に、新手法で作成した20mメッシュのCRマップとCCマップから、①適切に管理されている管理林、②間伐が必要な過密林、③健全度が極めて低い超過密林の3タイプにGIS上で区分する手順を作成した。その手順に従って計算した結果、①②③の面積割合は、常陸太田市では88.1%,11.5%,0.4%、久留米市では37.3%,36%,26.7%と見積もられた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アcPF13	雑草木の成長・再生速度の解明：林業における初期保育への応用	4～6	科研費 【競】	日本学術振興会
執筆者名	福本桂子			
研究の概要	下刈り回数を削減するためには、スギと雑草木の競争関係を把握する必要がある。様々な地域を対象に、スギと雑草木の競争関係が議論されてきた。これまでの下刈り省力化に関する研究では、雑草木とひとくくりに呼ばれることが多く、それぞれの種が持つ形態的、生理学的な特徴を詳しく論じた研究は数が限られていた。そこで本研究では、幼齢造林地に侵入する代表的な樹種であるアカメガシワ、タラノキ、ヌルデ、エゴノキ、リョウブ、クマイチゴ、ソヨゴを対象に、形態学的特徴や生存戦略を明らかにすることを目的とした。それぞれの樹種に対して、地上部および地下部バイオマスのアロメトリー式を構築し、サイズに対する成長速度の違いを検証した。また、樹種別、地上部の部位別（葉、枝、幹）のアロメトリー式を構築し、それぞれの樹種の資源分配様式を明らかにした。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アdPF19	地図指摘法を用いた森林所有者の森林空間情報の認知状況の把握	6～8	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	笹田敬太郎			
研究の概要	森林所有者の確定や林地の境界明確化を行う際、地域内の森林や境界の情報を知る精通者の存在は非常に重要である。本研究では、森林所有者に自らも含めた地域内の森林所有者や境界の認知状況を地図上で指摘してもらい情報を得た手段などを聞くことで、森林所有者や境界に精通している方（精通者）の再評価を試み、森林所有者の林地や境界の情報を得るプロセスや要因、傾向を明らかにする。 その前段として、今年度は、調査対象とする市町村を管轄する森林組合、1集落へ調査協力を依頼した。聞き取りの結果、両市町には10～20年前までは森林への精通者がいたが次第にいなくなっており精通者を通じたアプローチから航測技術を活用した手法への転換が図られている。一方で、所有者によっては境界や地域の情報を、被相続人などから伝え聞くなどの例も聞かれた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2アdPS3	EBPM実現のための森林路網B/C評価ツールの開発と社会実装	3～6	交付金	
執筆者名	笹田敬太郎			
研究の概要	林道は、森林整備のための基幹道に加え、住民の生活道、さらに災害時の迂回路としての役割を担っている。民有林の約9割は市町村が管理の責務を持つことになっているが、マンパワーや財源の不足から維持管理の困難化が懸念される。本研究では、全国を対象としたアンケート調査や各地におけるヒアリング調査から、市町村による林道の維持管理体制の現状や抱える課題を明らかにした。アンケート結果から、林道の維持管理にあたり苦労している点として、予算の確保、路線の見回りが困難、路線データの更新・整理が指摘された。見回りの困難も含め位置情報や路線情報の不足は、災害履歴の検証やコスト分析にも影響する維持管理上大きな課題である。一方、一部市町村では集落等による維持管理作業が難しくなった林道の森林組合や建設業者による補完、集落での維持管理作業への補助制度の新設などの対応策がみられた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2イa1	樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3～7	交付金	
執筆者名	石原誠			
研究の概要	識別が困難なサクラ類の増生症について、被害現場での早期診断を可能にする簡易診断法を開発することを目的とした。サクラ類こぶ病を始めとして現在、4つに類別されるサクラ類増生症について、外部病徴など、簡易診断を可能にする特性について明らかにした。サクラ類こぶ病はヤマザクラ、オオヤマザクラを中心に発生し、当年生枝の傷や皮目からの感染によるこぶ状の腫瘤を特徴とするが、エドヒガンこぶ症は1～2年時以降の枝分枝部や傷からのかのように端を発し、次第にこぶ組織を形成する。染井吉野大型こぶ症は染井吉野に見られ、1～4年生枝の師部壊死～かのようにに端を発し、内部に次第にこぶ組織を形成し、大型で紡錘状の腫瘤に発達する。連鎖球型かきよう症は、主にオオシマザクラ系栽培品種に発生し、師部壊死によるかきようが連なる。従って早期の簡易診断は外部病徴の観察や被害樹種を判定することで可能となる。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2イ a P F 5 0	土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発	5～7	科研費 【競】	日本学術振興会
執筆者名	木下晃彦			
研究の概要	食用きのこ栽培に土着天敵の利用を取り込んだ総合的生物防除技術を開発・導入することを目的とする。 シイタケのホダ場で発生する害虫やその天敵は周辺環境から栽培現場へ侵入・移入し、定着する。そのため、栽培現場で採用される害虫防除は、その周辺環境に生息し、害虫とすでに生物間相互作用を築いている天敵（以下単に土着天敵）を利用することが最も効果的かつ経済的である。本課題は、栽培シイタケの主要な害虫であるキノコバエ類の土着天敵寄生蜂（以下単に寄生蜂）の種多様性・DNAバーコード、害虫と寄生蜂の匂い・光に対する誘引特性、増殖率などの生活史を解明を目的とした。本年度は、九州支所内実験林の2ヶ所（林内ほだ場、旧作業小屋裏）でシイタケを接種したホダ木を設置し、発育ステージの異なる子実体から、固相マイクロ抽出法により揮発性物質を採取し、シイタケの発育過程における揮発性物質の変化について調べた。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2イ a P F 5 1	侵入樹木病原菌スギ赤枯病菌の全ゲノム配列の解読と遺伝的多様性の解明	5～7	科研費 【競】	日本学術振興会
執筆者名	安藤裕萌			
研究の概要	スギ苗木の最重要病害である赤枯病の病原菌は、1900年代初頭に北アメリカから持ち込まれた侵入病害と考えられているものの、遺伝的にどれ程多様な集団が侵入し、国内に分布しているのかは不明である。昨年度（令和5度）に、1950～1980年代にかけて国内各地で採取された分離株58株を供試して複数の遺伝子領域の塩基配列を解読した結果、国内に2系統に分かれることが示された。本年度は、これら2系統から各1菌株についてドラフトゲノムを解読し、両菌株間で変異を含むマイクロサテライト領域をターゲットに40種類のSSRマーカーを作成した。供試菌株58株のうち7菌株についてこれら40マーカーの多型を確認したところ、39マーカーでは前年度と同様に2系統間でのみ変異が確認された。一方、1マーカーでは各系統内でさらに多型が検出された。この1マーカーを含めた計14種類のマーカーを用いて、供試菌株58株の多型解析を実施したところ、供試菌株は12系統に分かれることが示された。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
1イ c 1	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	鈴木圭			
研究の概要	ほとんどの哺乳類では、「2分の1ルール」と呼ばれる一般的な原則があり、一度に出産する子供の数は乳頭数の半分の数である。しかし、樹上性のリスはこのルールから逸脱し、一度に出産する子供の数は乳頭数の半分以上である。一方、地上性のリスは、一度に出産する子供の数に2分の1ルール則っている。本研究ではニホンモモンガの春の産仔数は他の樹上性リスと同様であるものの、夏の産仔数は2分の1ルールに則って地上性のリスと同様であることを示した。つまり、ニホンモモンガは産仔数に関して、樹上性と地上性のリスの両方の特徴を持っているといえる。本結果はリス科の繁殖生態の進化の過程を解明するカギになる可能性がある。			

様式1 研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2イbPF13	国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築	4～6	政府等外受託【競】	生研支援センター
執筆者名	中村慎崇			
研究の概要	参画小課題名「高精度トリュフ菌判別手法の開発」、「新規植栽地でのトリュフ菌の増殖に適した養分条件の解明」、「成木根系へのトリュフ菌の定着技術の開発」 小課題名「新規植栽地でのトリュフ菌の増殖に適した養分条件の解明」ではホンセイヨウシロ菌根の定着に対する施肥の影響を調査した。施肥をしていない既存植栽地において局地的な土壤養分条件と菌根化率に有意な相関は見出せなかった。施肥により野外のトリュフ苗植栽地における土壤養分条件を変化させた結果、根の乾燥重量は増加傾向を示したのに対し、全体の菌根化率及びトリュフ菌による菌根化率は有意に減少し、多量の施肥がトリュフ菌の定着を妨げたことが示された。ポット苗を用いて施肥により土壤中のホンセイヨウシロDNA量を定量した結果、施肥から3か月目には施肥量の多い処理区で土壤菌体量が減少する傾向を示した。ただし、その後、夏季の高温でポット内の温度が上がったため6か月目と9か月目には全体の検出量が著しく低下した。			
課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
2エbPF5	木質バイオマスエネルギーの利用拡大を促進する技術の開発	5～6	政府等外受託【競】	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
執筆者名	石原誠			
研究の概要	目的はバイオマス利用ヤナギ類の穂木の低コスト栽培に資するため、実証試験現場に発生する病害について把握し、対策を考案することである。6月の試験開始後、しばらくしてガの幼虫の摂食による枝葉の損傷欠損が発生したが、病害はほとんど見られなかった。盛夏期に入ると、ルリハムシの摂食が増加し、マルバヤナギの下位葉に壊死病斑やかすれが発生した。9月になると、葉や枝先の摂食部位に黒変壊死が発生し、また、ポリポットの一部では枯れ下がりを起こす個体も見られた。過剰な摂食と散水過多が影響していると予想されたので、午後の灌水を停止して、夜間の過湿を防止する措置を試みた。また、オオタチヤナギ類に局所的なさび病の発生も見られたが、緩慢に進行し、成長への影響はないと考えられた。タチヤナギは虫害や病害の発生が軽微であり、旺盛に生育していた。これに対して都農の植栽地では病害はほとんど発生していなかった。病害回避には過剰な摂食害と灌水の回避が求められる。			

令和 6（2024）年の九州地域の森林病虫獣害発生状況

佐山勝彦・安藤裕萌・石原 誠・安田雅俊

はじめに：令和 6（2024）年の九州地域（九州 7 県と沖縄県）の森林病虫獣害発生状況を報告する。この報告は、九州地区林業試験研究機関連絡協議会保護専門部会、および著者らに寄せられた情報などを集約したものである。本報告に先立ち、情報をお寄せいただいた関係各位にお礼申し上げる。

虫害：2024 年に九州地域で確認された主な虫害を表 1 に示す。2023 年に続き表にあげられたのは、アカギヒメヨコバイ、サカキブチヒメヨコバイ、ソテツシロカイガラムシ、ケブカトラカミキリ、タイワンゴマダラカミキリ、タイワンハムシ、カシノナガキクイムシ、マツカレハ、キオビエダシヤク、ハウオウボククチバ、デイゴヒメコバチであった。

ササシロナガカイガラムシが福岡県で初めて確認された。本種は幼虫や成虫がモウソウチクの葉の裏面に寄生して吸汁する（河合、1980）。

ヨシブエナガキクイムシによるクヌギのほだ木（シイタケ原木生産用）への被害が長崎県で確認された。被害地では本種がほだ木に多数穿孔しており、シイタケの収量に影響があるのかどうか懸念される。本種はしばしば同所的に生息する近縁種のカシノナガキクイムシよりも小型で、コナラやミズナラの衰弱木や枯死木で繁殖する（井上ら、1998）。

鹿児島県では、クロフオオシロエダシヤクがシキミで発生した。本種の幼虫は黄緑色で白い縁どりのある黒い斑点が散在しており、終齢幼虫では体長が 40 mm ほどになる。蛹で越冬し、九州では 3 月から 9 月ごろまで成虫がみられるため、年 3～4 化していると推測される。九州では、1988～1989 年に大分県で被害が発生した記録がある（吉田・佐藤、1988、1989）。

鹿児島県の奄美大島と沖縄県の沖縄島では、街路樹や群落のソテツでソテツシロカイガラムシによる枯死被害（川口ら、2024）が続いている。本種は東南アジア原産の外来種である。九州本土ではまだ確認されていないが、今後、分布が広がる可能性があるので注意が必要である。

沖縄県では、ウラジロエノキからオキナワクワカミキリが新たに確認された。本種は沖縄島では少なくないが、2001 年頃、宮古島に侵入した（大林・新里、2007）。寄主植物として、モクマオウとヤマグワが知られている（大林・新里、2007）。

以上の虫害のほかに、宮崎県では、カイガラムシ類がスギの苗木生産施設で発生した。鹿児島県では、アザミウマ類がヒサカキで発生した。沖縄県では、前年に続き県内全域で、幼虫がデイゴの葉と実を食害するベニモンノメイガと幼虫がデイゴの茎に食入するオオエグリノメ

イガが、年中発生している。また、アカギの葉から吸汁するアカギヒメヨコバイが、沖縄島・久米島・伊江島で発生した。

病害：令和6年度のマツ材線虫病は、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の各県で発生が確認された。宮崎県、鹿児島県、沖縄県の被害量は増加傾向にある。特に宮崎県と鹿児島県内の国有林（海岸林）において甚大な被害が発生しており、被害が拡大しないよう伐倒駆除等による対策が実施されている。

ブナ科樹木萎凋病（通称「ナラ枯れ」）は、福岡、佐賀、長崎、熊本の各県で被害が確認された。佐賀県では、令和5年までに被害が確認されていた唐津市と鳥栖市に加え、伊万里市と白石町でも新たに被害が発生した。

その他の病害について、熊本県では‘染井吉野’に大型こぶ症、ヤマザクラにサクラ類こぶ病が発生している。宮崎県ではマツの葉ふりい病（庭木）、サカキの輪紋葉枯病（生垣）、鹿児島県ではシキミの白紋羽病、センリョウの炭疽病、沖縄県では様々な樹種で南根腐病の被害が確認された。また、宮崎県と鹿児島県の枝物用シキミの生産地域において、葉の退色や枯死する被害が発生している。本症状の発生要因については特定には至っていないため、病害虫によるものかは明らかになっていないが、原因究明に向けて調査が進められている。カシ・ナラ類枝枯細菌病が九州一円で依然として発生し、シリブカガシ上での新たな発生など、自然宿主の拡大が認められる。

獣害：在来種ではニホンジカとニホンノウサギによる被害が出ている。外来種では農林業被害や森林生態系への被害が懸念される特定外来生物クリハラリス（別名タイワンリス）が各地に定着している。2023年度と2024年度の捕獲数を比較すると、長崎県壱岐市では18,418頭から25,241頭、同県五島市では1,483頭から2,120頭に増加した。同期間に、熊本県宇土半島（宇土市・宇城市）では1頭、1頭と変わらず、大分県高島（大分市）では0頭、0頭で地域根絶の可能性が高まった。近年、新たに発見された大分県別府市の個体群では2022～2024年度に計48頭が捕獲され、防除が進行中である。佐賀県武雄市ではクリハラリスの飼育施設周辺の森林で本種によるものとみられる古い環状食痕が初めて確認された（安田、印刷中）。改正外来生物法の施行により、地方自治体による外来種防除が今後ますます活発化すると見込まれる。

おわりに：九州地域は外来生物が侵入する頻度が高く、病虫獣害の被害拡大を阻止するためにも、今後も引き続き関係各位の情報収集・提供へのご協力をお願いする。

なお、この報告は、九州の森と林業 No.153（2025年9月発行）の様式と表現を一部改変し、

引用文献と追加情報などを加えたものである。

引用文献

井上牧雄・西垣眞太郎・西村徳義（1998）コナラとミズナラの生立木，枯死木および丸太におけるカシノナガキクイムシとヨシブエナガキクイムシの穿入状況と成虫脱出状況. 森林応用研究 7: 121–126.

川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫（2024）奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ（新称）（半翅目：マルカイガラムシ科）の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究 28: 3–9.

河合省三（1980）日本原色カイガラムシ図鑑. 全国農村教育協会.

大林延夫・新里達也共編（2007）日本産カミキリムシ. 東海大学出版会.

安田雅俊（2026）佐賀県西部におけるクリハラリスの生息痕跡の発見と防除の課題. 哺乳類科学 66（印刷中）.

吉田成章・佐藤重穂（1988）九州の昭和 63 年度害虫獣発生状況. 九州の森と林業 7: 4–5.

吉田成章・佐藤重穂（1989）九州の平成元年度害虫獣発生状況. 九州の森と林業 11: 6–7.

表－１ 令和６（２０２４）年に九州地域で確認された主な虫害

害虫名	発生地	樹種	環境
【カメムシ目】			
アカギヒメヨコバイ	沖縄県（沖縄島・久米島・伊江島）	アカギ	街路樹 植栽木
サカキブチヒメヨコバイ	佐賀県、熊本県	サカキ	植栽木
ササシロナガカイガラムシ	*福岡県（八女郡）	モウソウチク	竹林
ソテツシロカイガラムシ	鹿児島県（奄美大島）、沖縄県（沖縄島）	ソテツ	街路樹 群落
【コウチュウ目】			
ケブカトラカミキリ	長崎県、鹿児島県	イヌマキ	植栽木
タイワンゴマダラカミキリ	沖縄県（沖縄島）	ウラジロエノキ	植栽木
オキナワクワカミキリ	*沖縄県（沖縄島）	ウラジロエノキ	植栽木
タイワンハムシ	沖縄県（沖縄島北部）	ハンノキ	天然林
ヨシブエノナガキクイムシ	*長崎県	クヌギ	ほだ木
カシノナガキクイムシ	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県	マテバシイ、 ツブラジイ（コジイ）、スダジイ、 コナラ、クヌギ	天然林 植栽木
【チョウ目】			
マツカレハ	熊本県（熊本市）、鹿児島県	タギョウショウ、 クロマツ	庭木 海岸林
キオビエダシャク	宮崎県、鹿児島県、沖縄県	イヌマキ	植栽木
クロフオオシロエダシャク	*鹿児島県	シキミ	植栽木
ホウオウボククチバ	沖縄県（沖縄島）	ホウオウボク	街路樹
【ハチ目】			
デイゴヒメコバチ	沖縄県	デイゴ	街路樹

*被害が初めて確認された発生地

iPhone 搭載 LiDAR を用いて測定された胸高直径の測定精度

山川博美

はじめに：森林調査において、樹木の胸高直径(DBH)は、森林の構造や成長速度、資源量を把握するうえで非常に重要な測定項目である。一般に、DBH は巻尺や輪尺を用いて測定される。近年では、地上型 LiDAR を使ったレーザー照射による DBH の計測も可能となり、調査の効率化や樹木位置図の作成が容易になってきた。しかしながら、森林調査に用いる LiDAR 計測機器は高価なものが多く、気軽に利用できるものではない。

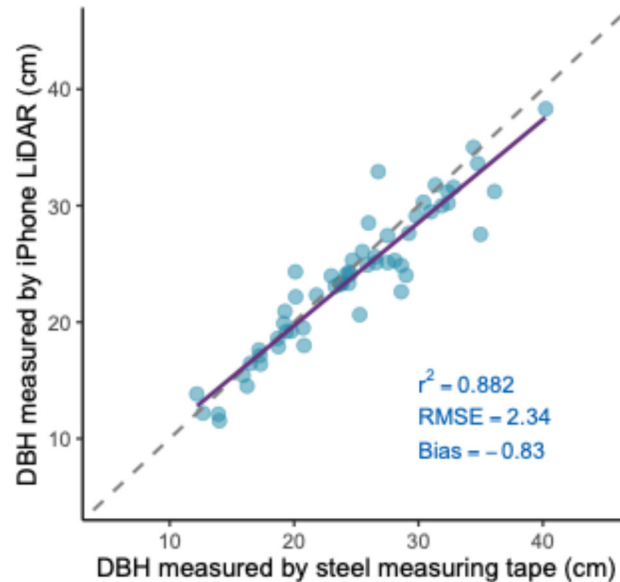
一方で、LiDAR 計測技術は、自動運転やロボット掃除機など様々な用途に活用されるようになり、スマートフォン（例えば、Apple 社製 iPhone や iPad の一部）にも搭載されレーザーによる距離計測や 3D モデルの作成が身近になってきた。さらに、LiDAR が搭載された iPhone または iPad 用の DBH 計測アプリも開発され (ForestScanner; Tatsumi et al. 2022)、森林調査でも手軽に活用できるようになってきた。これらを使うことによって、従来機器と比べ、導入コストが安く、携帯性や操作性に優れているため、現地調査の効率化や市民参加型によるデータ収集の可能性も広がってくる。

iPhone 搭載 LiDAR を使った DBH の計測精度を検証した例はいくつか報告されているが、樹木の形状や樹皮の影響などが考えられる。本研究では、ヒノキ人工林において、iPhone 搭載 LiDAR を用いて計測された DBH とスチールメジャーによって計測された DBH の比較を行ったので報告する。

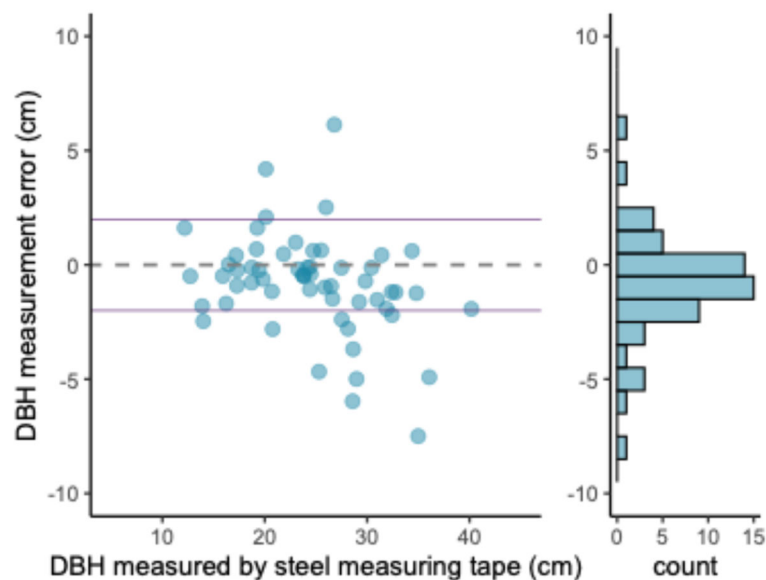
調査地と方法：調査は熊本県熊本市に位置する熊本市有林内のヒノキ人工林で行った。ヒノキ人工林内の 58 本(DBH: 12.2~40.2cm)を対象にスチールメジャーと iPhone による DBH の計測を行った。スチールメジャーによる計測は、ヒノキの地上高 1.3m の位置の周囲長を測定し、円周率で除することで DBH を算出した。iPhone による計測は、iPhone 15 Pro (Apple 社製)および計測アプリ ForestScanner (Tatsumi et al. 2022) を使用した。

結果と考察：iPhone および計測アプリ ForestScanner で測定された DBH とスチールメジャーで測定された DBH は、よく一致しており、決定係数(r^2)は 0.882 であった(図-1)。RMSE(平方平均二乗誤差)および Bias(偏り)は、それぞれ 2.34cm、-0.83cm であった(図-1)。iPhone および ForestScanner を使った他の測定事例と比較すると、北海道の針葉樹および広葉樹人工林 (DBH:5~70cm 程度、 $r^2=0.963$ 、RMSE=2.3cm、Bias=0.2cm ; Tatsumi et al. 2022)、チェコ共和国の針葉樹および広葉樹 6 種 (DBH:24.7~42.4、 $r^2=0.95\sim0.98$ 、RMSE=2.02~3.77cm ; Singh et al. 2024)、アメリカ・ルイジアナ州のテーダマツ林 (DBH:31.3~93.6cm、 $r^2=0.87$ 、RMSE=5.27cm、Bias=-0.15cm ; Howie and Stefano 2024) であり、樹種は異なっても同程度の測定精度であることが確認できた。また、計測個体の 81%(47 本)は測定誤差 2cm 未満に収まっていたが、DBH が大きくなるほど過小に計測される傾向がみられた(図-2)。今後、測定誤差が大きかった個体について、その要因が特定できると、さらなる精度向上が期待できる可能性がある。

iPhone と計測アプリ ForestScanner を使った計測では、DBH の測定と同時に樹木位置の記録も可能である。測定時間もメジャー等を使った計測より短縮できることが報告されており、測定精度を念頭においたうえで目的に応じた活用が期待できるだろう。



図－1 スチールメジャーと iPhone 搭載 LiDAR で測定した胸高直径(DBH)の関係



図－2 スチールメジャーで計測された DBH と測定誤差の関係

引用文献：

Howie NA, De Stefano A (2024) Forest Science 70(4): 304-310.

Singh A, Pavlenko V, Mokros M (2024) International Journal of Remote Sensing 45(24): 9443-9460.

Tatsumi S, Yamaguchi K, Furuya N (2022) Methods in Ecology and Evolution 14: 1603-1609.

夏木収穫試験地における林分構造の変化

高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎

はじめに：夏木収穫試験地は、皆伐用材林施業団によって施業した場合のヒノキ人工林の成長量・収穫量をはじめとする統計資料を収集するとともに、林分構造の推移を解明する目的で 1936 年に設置された。2024 年 12 月に定期調査を実施した結果を報告する。

材料と方法：本試験地は、綾宮林署夏木事業区 35 林班へ小班（現宮崎森林管理署 2035 林班ち小班）に設定されている。樹種は 1914（大正 3）年 2 月に植栽されたヒノキである。標高は 700m、面積は 0.77ha、方位は南東、傾斜は 10 度～30 度、地質は固結堆積物（砂岩、貢岩）、土壌型は BI_(m) である。調査方法は収穫試験地施行要綱（3 林野業一第 29 号）に即した。

調査結果：図 1 に林分構造の変化を示す。今回の調査時の林齢は 112 年生で、前回の調査時 2012 年 11 月から約 12 年が経過しているが、この 12 年間で、立木密度の減少（図 1c）の影響よりも平均樹高および平均直径の増加（図 1a）の影響が大きいことにより、幹材積（図 1b）や連年成長量および成長率（図 1d）は増加した。当該林分は老齢でもなお林分成長が認められる貴重な知見が得られており、今後も定期的な調査が必要である。

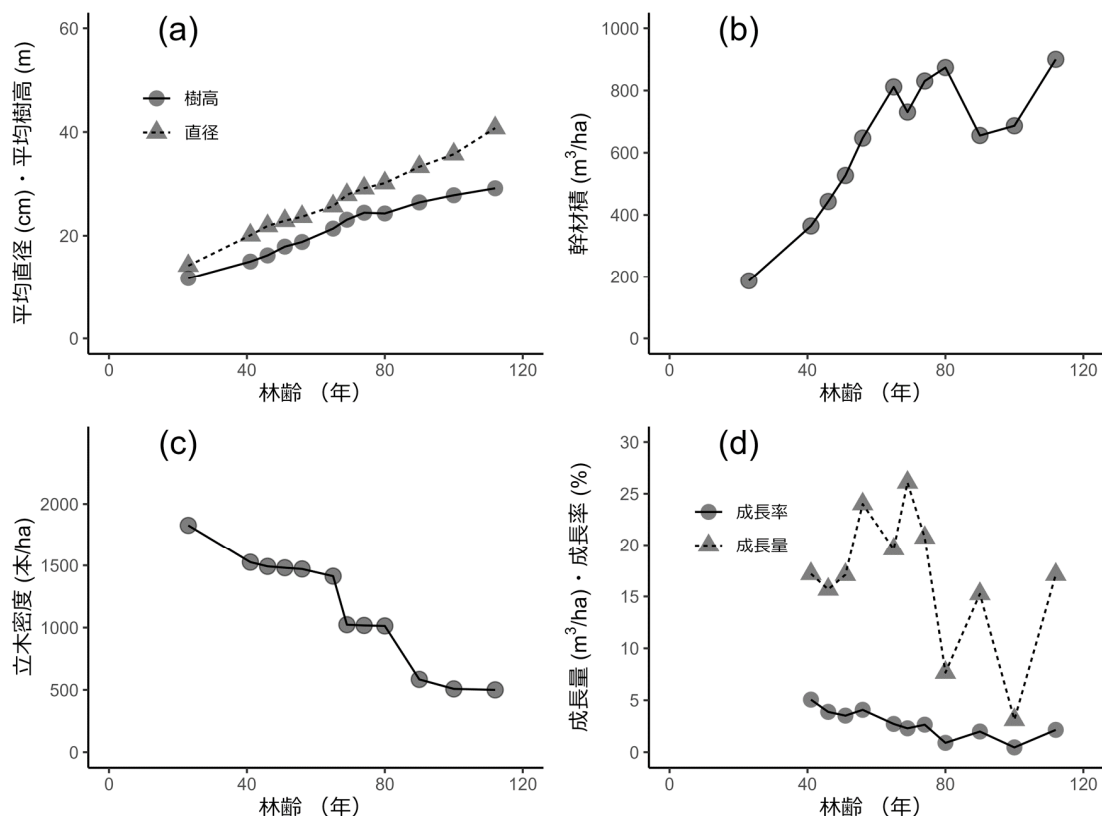


図-1. (a) 平均直径および平均樹高の成長、(b) 幹材積の成長、(c) 立木密度の推移、(d) 幹材積の連年成長量と成長率

仁川第一号収穫試験地における林分構造の変化

高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎

はじめに：仁川第一号収穫試験地は、皆伐用材林施業団によって施業した場合のヒノキ人工林の成長量・収穫量をはじめとする統計資料を収集するとともに、林分構造の推移を解明する目的で 1948 年に設置された。2025 年 1 月に定期調査を実施した結果を報告する。

材料と方法：本試験地は、熊本森林管理署 184 林班は小班に設定されている。樹種は 1931（昭和 6）年 3 月に植栽されたヒノキである。標高は 340m、面積は 0.065ha(間伐区 1), 0.069ha(間伐区 2), 無間伐区(0.064ha)、方位は南、傾斜は 15 度～20 度、地質は安山岩、土壌型は B_D である。調査方法は収穫試験地施行要綱（3 林野業一第 29 号）に即した。

調査結果：図 1 に林分構造の変化を示す。今回の調査時の林齢は 94 年生で、前回の調査時 2015 年 12 月から約 9 年が経過しているが、この 9 年間で、立木密度の減少(図 1c)は全区において無かったが、平均樹高および平均直径の増加(図 1a)によって、全区において幹材積(図 1b)や連年成長量および成長率(図 1d)は増加した。当該林分は老齢でもなお林分成長が認められる貴重な知見が得られており、今後も定期的な調査が必要である。

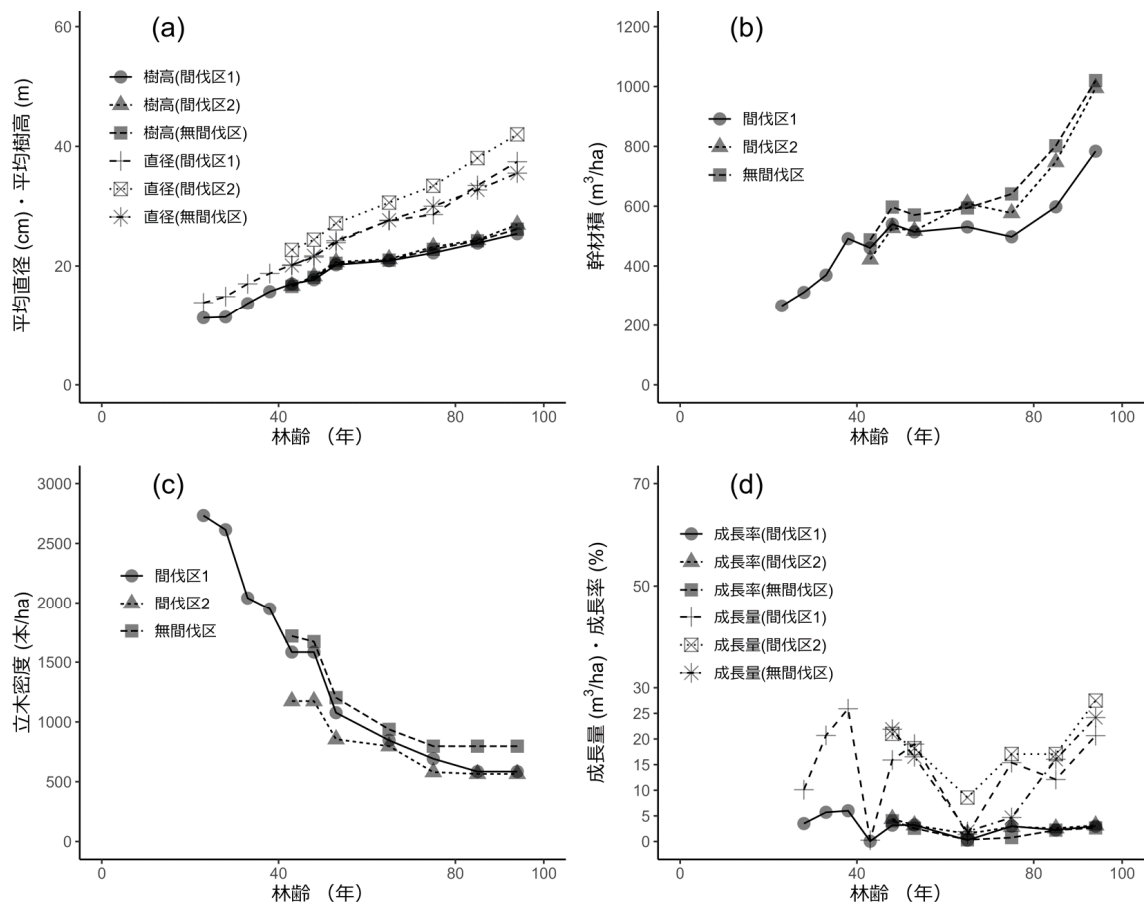


図-1. (a) 平均直径および平均樹高の成長、(b) 幹材積の成長、(c) 立木密度の推移、(d) 幹材積の連年成長量と成長率

令和6年度の発表業績

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
KAWANISHI Ayumi(川西あゆみ・森林総研非常勤職員)、 <u>SAKAI Yoshimi(酒井佳美)</u> 、ISHIZUKA Shigehiro(石塚成宏)、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、IMAYA Akihiro(今矢明宏)、YAMASHITA Naoyuki(山下尚之)、HIRAI Keizo(平井敬三)、FURUSAWA Hitomi(古澤仁美)、AIZAWA Shuhei(相澤州平)	Increased deadwood carbon stocks through planted forestry practices: Insights from a Forest Inventory Survey in Japan(枯死木による炭素蓄積量への森林施業の影響：日本の森林インベントリー調査からの考察)	Carbon Management、15(1):2315087	2024.03.(*)
<u>MORI Taiki(森大喜)</u>	Empirical evidence challenges the effectiveness of the enzymatic stoichiometry of glucosidase and phosphatase as an indicator of microbial C vs P limitation(微生物の炭素およびリン制限の指標としてのグルコシダーゼとホスファターゼの酵素化学量論の有効性に異議を唱える経験的証拠)	Science of the Total Environment、915:170079	2024.03.(*)
<u>MORI Taiki(森大喜)</u> 、Cong Wang(中国科学院)、Senhao Wang(中国科学院)、Wei Zhang(中国科学院)、Jiangming Mo(中国科学院)	Contradiction with enzymatic stoichiometry theory: Persistent low ratios of β -glucosidase to phosphomonoesterase following 10-year continuous phosphorus fertilization in three subtropical forests(酵素化学量論との矛盾：3つの亜熱帯森林における10年間の継続的なリン施肥後のホスホモノエステラーゼに対する β -グルコシダーゼの比率が持続的に低い)	Pedobiologia、103:150931	2024.03.(*)
<u>MURAKAMI Shigeki(村上茂樹)</u>	Reduction in the ratio of stemflow to rainfall during heavy rain in two Japanese cedar stands and the influence on rainfall partitioning(日本の2つのスギ林分での大雨時における雨量に対する樹幹流の割合の減少とその雨水配分への影響)	Journal of Hydrology、634、DOI:10.1016/j.jhydrol.2024.131100	2024.03.(*)
<u>安藤裕萌</u>	造林樹木の苗木病害	樹木医による樹木診断・治療事例集(日本樹木医会、215頁)、:17	2024.03.(*)
<u>安藤裕萌</u> 、小坂肇、佐橋憲生(森林総研非常勤職員)	スギ赤枯病の被害軽減に向けた取り組み	林業と薬剤、247:31-36	2024.03.(*)
太田祐子(日本大学)、田中宏卓(愛媛大学)、島田律子(非特定非営利活動法人小笠原野生生物研究会)、向哲嗣(アイランズケア)、 <u>安藤裕萌</u> 、大川夏生(日本大学)、佐橋憲生(森林総研非常勤職員)、秋庭満輝、矢崎健一、松倉君予(日本大学)、古澤仁美、才木真太郎、石田厚(京都大学)	外来種ルビーロウムシの父島および母島における寄主植物と分布	小笠原研究、50:69-78	2024.03.(*)

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
HIGASHIKAWA Wataru(東川航) 、MATSUZAWA Yuki(松澤優樹・土木研究所)、MORI Terutaka(森照貴・土木研究所)	Forest expansion affects Odonata assemblage in floodplain: A case study in the Kiso River, central Japan(氾濫原の森林拡大がトンボ群集に及ぼす影響－木曽川での事例研究)	Limnology、 https://doi.org/10.1007/s10201-024-00748-7	2024.04.
MIYAZAKI Kazuhiro(宮崎和弘)、SAKAMOTO Yuichi(坂本裕一・岩手生物工学研究センター)、SATO Shiho(佐藤志穂・岩手生物工学研究センター)、MIYAMOTO Ryohei(宮本亮平・大分県農林水産研究指導センター)、YADA Ryoko(彌田涼子・大分県農林水産研究指導センター)、ISHII Hideyuki(石井秀之・大分県農林水産研究指導センター)、YAMAUCHI Takahiro(山内隆弘・株式会社北研)、GOTO Fumikazu(後藤史和・株式会社北研)、 KINOSHITA Akihiko(木下晃彦) 、KANEKO Shinya(金子真也・東京工業大学)、ASANO-MATSUSHITA Satomi(浅野(松下)さとみ・東京工業大学)、MIYAZAKI Yasumasa(宮崎安将)、OKII Erika(沖井絵理香・九州大学)、SHIRAIISHI Susumu(白石進・九州大学)	Mapping of quantitative trait loci associate with temperature for fruiting body induction in Lentinula edodes (shiitake mushroom)(シイタケの子実体形成を誘導する温度に關与する量的形質遺伝子座のマッピング)	Mushroom Science and Biotechnology(日本きのこ学会誌)、 32(1):31-40	2024.04.
R.M.S. Ruwan Chamara(チャマラ・佐賀大学、鹿児島大学)、RAMMITSU Kento(蘭光健人・東京大学)、MINOBE Mutsumi(美延睦美・徳之島虹の会)、 KINOSHITA Akihiko(木下晃彦) 、 KOTAKA Nobuhiko(小高信彦) 、YUKAWA Tomohisa(遊川知久・国立科学博物館)、OGURA-TSUJITA Yuki(辻田有紀・佐賀大学、鹿児島大学)	Mycorrhizal fungi of Phalaenopsis japonica (Orchidaceae) and their role in seed germination and seedling development(ラン科ナゴランの菌根菌と種子発芽および実生成長に対する菌根菌の役割)	Diversity、16(4):218	2024.04.
SHIMADA Takuya(島田卓哉)、IIJIMA Hayato(飯島勇人)、 KOTAKA Nobuhiko(小高信彦)	Wild boar population fluctuations in a subtropical forest: the crucial role of mast seeding in Ryukyu Islands、Japan(琉球列島亜熱帯林に生息するリュウキュウイノシシの個体数変動とスダジイ堅果豊凶との関係)	European Journal of Wildlife Research、 70:41	2024.04.
伊神裕司 、山下香菜、藤本清彦、松村ゆかり、松田陽介、村野朋哉、井道裕史	スギ大径材からの心去り平角の製材－製材歩止りと製材能率の向上策－	木材工業、79(4):140-145	2024.04.
山岸極	土の保全に配慮したヒノキ人工林管理	造林時報、223:13-18	2024.04.
勝木俊雄	桜こぼれ話(4)クマノザクラの発見	Makino、128:6-7	2024.04.
HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、 MORI Taiki(森大喜) 、SAKATA Tadashi(阪田匡司)、HASHIMOTO Toru(橋本徹)、MORISHITA Tomoaki(森下智陽)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、KOMINAMI Yuji(小南裕志)、MIYAMA Takafumi(深山貴文)、ISHIZUKA Shigehiro(石塚成宏)、YAMASHITA Naoyuki(山下尚之)、OKAMOTO Toru(岡本透)、TAKANASHI Satoru(高梨聡)、INAGAKI Yoshiyuki(稲垣善之)	Nationwide monitoring of forest soil methane and carbon dioxide fluxes in Japan(森林土壌メタンおよび二酸化炭素フラックスの全国モニタリング)	Japan Geoscience Union Meeting 2024(日本地球惑星科学連合2024年大会)、 BCG04-04	2024.05.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
IIDA Shin'ichi(飯田真一)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、 KABEYA Naoki(壁谷直記) 、 SHIMIZU Akira(清水晃) 、ARAKI Makoto(荒木誠)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、ITO Eriko(伊藤江利子)、 TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平) 、TANAKA Kenzo(田中憲蔵・国際農林水産業研究センター)、KUBOTA Tayoko(久保田多余子)、YAMANAKA Tsutomu(山中勤)、Sophal Chann(カンボジア野生生物研究所)、Delphis F Levia(アメリカデラウェア大学)	Leaf phenology of overstory trees governs evapotranspiration in a dry deciduous forest in Cambodia(上層木の葉の植物季節によって制御されるカンボジア乾燥落葉林の蒸発散量)	Japan Geoscience Union Meeting 2024(日本地球惑星科学連合2024年大会)、AHW18-P12	2024.05.
OTAKE Tatsuki(大竹樹生・熊本大学理学部)、 ICHIYANAGI Kimpei(一柳錦平・熊本大学理学部) 、 KABEYA Naoki(壁谷直記)	Intra-event changes in stable isotope ratios of precipitation using automatic samplers in 2023(2023年における自動採取器を用いた降雨の安定同位体比のイベント内変化)	Japan Geoscience Union Meeting 2024(日本地球惑星科学連合2024年大会)、AHW24-01	2024.05.
宗祥史(鹿児島連大)、Ayman K. Elsayed(佐大・農)、田淵研(東北農研)、吉村英翔(東北農研)、岩泉連(横浜市)、内藤明紀(日本野鳥の会)、山尾僚(京大・生態研)、村山輝記(広島市)、 小高信彦 、古川晶啓(佐大・農)、尾形之善(西之表市)、喜久村智子(沖縄農研)、徳田誠(佐大・農；鹿児島連大)	ヨモギ属植物の蕾を利用するタマバエ類の多様性	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:41(C-4)	2024.05.
小高信彦	ノグチゲラの不思議：オスの地つつきは、夫婦円満の秘訣	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:19(S02)	2024.05.
小高信彦 、村田尚史(名護市教育委員会)、宮里ひな子(名護博物館)、坂下光洋(名桜大学)、藤根誠道(沖縄こどもの国)、芦田裕史(沖縄美ら島財団)、戸田守(琉球大・亜熱生研)	屋我地島および沖縄島中南部におけるリュウキュウヤマガメの自然分布の可能性について	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:51(D-13)	2024.05.
上原蓬(琉球大・農)、久保田蒼生(辺土名高校)、仲本茶真(辺土名高校)、島袋禮(辺土名高校)、徳元将太郎(辺土名高校)、村田尚史(名護市教育委員会)、宮里ひな子(名護博物館)、笹井隆秀(沖縄美ら島財団)、 小高信彦	マンガースのいない御嶽や御墓はオキナワトカゲのレフュージア：名護市内の事例からの予報	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:51(D-14)	2024.05.
森下功啓(熊本高専)、榮村奈緒子(鹿大)、鶴川信(鹿大)、藤田志歩(鹿大)、牧貴大(鹿大)、鳥飼久裕(奄美野鳥の会)、 小高信彦	AIを用いた自動撮影カメラ音源からのオオトラツグミのさえずり検出	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:44(C-14)	2024.05.
中村慎崇	樹木の根部に定着するピョウタケ目菌類の探索及び生殖生態に関する研究	日本菌学会大会講演要旨集、68:29	2024.05.
中村葉子(埼玉県)、 近藤洋史	埼玉県のナラ枯れ情報収集体制と被害拡大の様相	森林技術、985:14-17	2024.05.
徳田誠(佐大・農；鹿児島連大)、宗祥史(鹿児島連大)、 小高信彦	東アジアにおけるスダジイタマバエの遺伝的変異と分布拡大過程の推定	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:41(C-6)	2024.05.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
武山智博(岡山理大)、岩見恭子(山階鳥研)、富田直樹(山階鳥研)、兵藤不二夫(岡山大)、水田拓(山階鳥研)、関伸一、 <u>小高信彦</u>	鳥類標本の新たな学術利用方法の検討ー羽の安定同位体分析	四学会合同沖縄大会講演要旨集(2024)、:30(P-33)	2024.05.
<u>北出雄生</u> (森林総研PD)、 <u>木下晃彦</u> 、 <u>中村慎崇</u> 、山口宗義、山中高史	国産白トリュフ、ホンセイヨウショウロ発生地における土壌細菌叢の通年モニタリング	日本菌学会大会講演要旨集、68:74	2024.05.
HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、SAKATA Tadashi(阪田匡司)、YAMASHITA Naoyuki(山下尚之)、 <u>MORI Taiki(森大喜)</u> 、MORISHITA Tomoaki(森下智陽)、ISHIZUKA Shigehiro(石塚成宏)	Topographically high-resolution mapping of catchment-scale soil carbon dioxide and methane fluxes(土壌二酸化炭素のとメタンフラックスの流域スケールの高空間解像度マッピング)	IUFRO World Congress 2024、T5.9	2024.06.
<u>MORI Taiki(森大喜)</u> 、Xiankai Lu(中国科学院)、Senhao Wang(中国科学院)、Cong Wang(中国科学院)、Zhuohang Wang(中国科学院)、Mianhai Zheng(中国科学院)、Jiangming Mo(中国科学院)	Litter decomposition in three subtropical forests in southern China showed no evidence of phosphorus limitation(中国南部の3つの亜熱帯林におけるリター分解試験からは、リン制限の証拠は得られなかった)	日本熱帯生態学会年次大会要旨集、34:73(P17)	2024.06.
<u>MORI Taiki(森大喜)</u> 、Xiankai Lu(中国科学院)、Senhao Wang(中国科学院)、Cong Wang(中国科学院)、Zhuohang Wang(中国科学院)、Mianhai Zheng(中国科学院)、Jiangming Mo(中国科学院)	Lack of P limitation on litter decomposition: a case study from long-term addition of phosphorus and nitrogen in three subtropical forests in southern China(リター分解はリンによって制限されていない：中国南部の亜熱帯林におけるリンおよび窒素長期添加実験から)	Journal of Forest Research、29(3):196-203	2024.06.
<u>SUZUKI Kei K(鈴木圭)</u> 、 <u>ANDO Yuho(安藤裕萌)</u>	Litter size of Japanese flying squirrels Pteromys momonga varies seasonally: an intermediate pattern between arboreal and ground squirrels(ニホンモモンガの産仔数は季節変化する。樹上性リスと地上性リスの中間的なパターン)	Journal of Vertebrate Biology、73(24033):24033.1-9	2024.06.
<u>SUZUKI Kei K(鈴木圭)</u> 、 <u>MORI Taiki(森大喜)</u> 、 <u>YAMAGAWA Hiromi(山川博美)</u>	Seasonal change in attractiveness of salt water on female deer(メスジカに対する塩水の誘引効果の季節変化)	European Journal of Wildlife Research、70:65	2024.06.
<u>TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)</u> 、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、NISHIZONO Tomohiro(西園朋広)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、ARAKI G. Masatake(荒木眞岳)、HIRATA Yasumasa(平田泰雅)	Assessing climate change impacts on Japanese cedar plantations: Mitigation and adaptation measures in shrinking scenarios(スギ人工林への気候変動の影響：縮小シナリオにおける緩和策と適応策)	IUFRO World Congress 2024、T5.22	2024.06.
<u>安田雅俊</u>	熊本県における外来種ミンクの養殖について	熊本野生生物研究会誌、12:27-30	2024.06.
<u>安田雅俊</u>	長崎のジャコウネズミは江戸をみたか	熊本野生生物研究会誌、12:99-103	2024.06.
<u>安田雅俊</u>	熊本県のニホンジカ	熊本野生生物研究会誌、12:104-115	2024.06.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
安田雅俊	「殿さまのスケッチブック」展によせて	熊本日日新聞、2024年 6月12日:9	2024.06.
安田雅俊 、安田晶子(熊本県博物館ネットワークセン ター)、川田伸一郎(国立科学博物館)	20世紀に採集された熊本県産オヒキコウモ リ標本について	熊本野生生物研究会 誌、12:47-52	2024.06.
安田雅俊 、堤将太(熊本県博物館ネットワークセンター)	本草学者田村藍水はいつ長崎に滞在した か	長崎県生物学会誌、 94:26-29	2024.06.
伊神裕司	就任にあたって	九州の森と林業、148:1	2024.06.
伊神裕司	帯鋸目立て士の育成は焦眉の急	JASと食品表示、 59(6):10-12	2024.06.
伊神裕司 、山下香菜、藤本清彦、松田陽介、村野朋 哉、井道裕史、松村ゆかり	スギ大径材からの心去り平角の製材におい て、新たな設備投資を伴わないコスト低減 策を提案	森林総合研究所研究成 果選集2024(令和6年 版)、30-31	2024.06.
佐山勝彦	ハチ刺されの被害と対処法－被害が発生 する季節を前に、いま一度の再確認を－	林材安全、904:5-10	2024.06.
坂田拓司(熊本野生生物研究会)、 安田雅俊 、坂本真 理子(熊本野生生物研究会)、天野守哉(熊本野生生 物研究会)、田上弘隆(熊本野生生物研究会)	熊本城天守閣周辺を飛翔するオヒキコウモ リTadarida insignisの活動状況	熊本野生生物研究会 誌、12:15-25	2024.06.
山川博美	成長に優れた苗木を活用した下刈リスケ ジュールとそのPDCA	山林、1681:20-27	2024.06.
山中高史、小長谷啓介、古澤仁美、野口亨太郎、山 口宗義、小河澄香、 木下晃彦 、 中村慎崇 、北出雄生 (森林総研PD)	日本に自生する白トリユを継続的に発生 させることに成功	森林総合研究所研究成 果選集2024(令和6年 版)、28-29	2024.06.
酒井佳美	九州・沖縄地域の森林・林業の研究拠点 として－森林総合研究所九州支所－	森林科学、101:39	2024.06.
前田史和(熊本野生生物研究会)、 安田雅俊	大分県大分市高島におけるオヒキコウモリ Tadarida insignisの音声記録	熊本野生生物研究会 誌、12:31-36	2024.06.
大谷達也、米田令仁、 福本桂子 、 山川博美	四国中央部における4年生のスギ特定母樹 苗「高岡署1号」での寒害	森林総合研究所研究報 告、23(2):83-88	2024.06.
東川航 、吉村真由美	赤トンボの生息地ネットワーク保全に向けて	九州の森と林業、148:2- 4	2024.06.
福本桂子 、稲垣善之、宮本和樹	ヒノキ同齢林における単木直径成長モデル の検討－距離従属競争指数および距離 独立競争指数の評価－	日本森林学会誌、 106(6):172-178	2024.06.
INAGAKI Masahiro(稲垣昌宏) 、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、FURUSAWA Hitomi(古澤仁美)、 Forest Soil Carbon Inventory Team、FFPRI(森林総 研土壌炭素インベントリチーム)	Nationwide forest soil carbon survey in Japan and applications of soil information(日本の森林土壌炭素全国 調査と土壌情報の利用)	Proceedings of the 21th Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia(WGIA21)(第21回ア ジア温暖化ガスインベ ントリワークショップ要旨集)、 30	2024.07.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
James R.P. Worth(ワースジェームズ)、KIKUCHI Satoshi(菊地賢)、 KANETANI Seiichi(金谷整一) 、TAKAHASHI Daiki(高橋大輝・東北大学)、AIZAWA Mineaki(逢沢峰昭・宇都宮大学)、Elena A. Marchuk(ロシア科学アカデミー極東支部)、Hyeok Jae Choi(昌原大学(韓国))、Maria A. Polezhaeva(ロシア科学アカデミー・ウラル支部)、Viktor V. Sheiko(ロシア科学アカデミー極東支部)、UENO Saneyoshi(上野真義)	Chloroplast genome-based genetic resources via genome skimming for the subalpine forests of Japan and adjacent regions(ゲノムスキミングによる日本の亜高山帯林と隣接地域の葉緑体ゲノムに基づく遺伝資源)	Ecology and Evolution、14(7):e11584	2024.07.
安藤裕萌 、陶山大志(島根県中山間地域研究センター)、市原優	スギコンテナ苗育成現場で発生した黒点枝枯病菌による胴・枝枯性被害	樹木医学研究、28(3):152-153	2024.07.
伊神裕司	大径材の利用促進に向けた課題と取り組み	JATAFFジャーナル、12(7):33-37	2024.07.
市原優、 安藤裕萌 、升屋勇人	中国地方の低標高地におけるカラマツ植栽試験で発生した苗立枯に関与する菌類	樹木医学研究、28(3):154-155	2024.07.
田端雅進、 安藤裕萌 、升屋勇人	病害(うどんこ病)	森林総合研究所第5期中長期計画成果23(森林産業-9)ウルシの健全な森を育て、持続的に良質な漆を生産する、:25	2024.07.
田端雅進、 安藤裕萌 、升屋勇人、市原優、相川拓也、	病害(胴枯病)	森林総合研究所第5期中長期計画成果23(森林産業-9)ウルシの健全な森を育て、持続的に良質な漆を生産する、:24	2024.07.
野宮治人	獣害問題再点検	山林、1682:25-32	2024.07.
UEDA Akira(上田明良)、ITO Hiroki(伊東宏樹)、 KANETANI Seiichi(金谷整一)	Effects of heterogenous forest environments on ground-dwelling beetles in a conifer plantation(ひとつの針葉樹林内の異質森林環境が地上性甲虫類に与える影響)	Entomological Science、27(3):e12584	2024.08.
丸田裕介(琉球大)、中谷裕美子(どうぶつたちの病院沖縄)、長嶺隆(どうぶつたちの病院沖縄)、金城道男(どうぶつたちの病院沖縄)、高橋弓子(国立環境研)、大沼学(国立環境研)、石川伊智子(環境省やんばる野生生物保護センター)、椎野風香(環境省やんばる野生生物保護センター)、中田勝士(南西環境研究所)、 小高信彦	オキナワトゲネズミ(Tokudaia muenninki)のロードキル初記録	哺乳類科学、64(2):227-232	2024.08.
勝木俊雄	桜こぼれ話(5)九州のカスミザクラ	Makino、129:6-7	2024.08.
大和直暉(琉球大)、 小高信彦 、高嶋敦史(琉球大)、中田勝士(南西環境研究所)、久高奈津子(YambaruGreen)、久高将洋(YambaruGreen)、小林峻(琉球大)	沖縄島北部におけるケナガネズミ Diplothrix legata(ネズミ科)の巣材と利用樹洞の特徴	哺乳類科学、64(2):215-225	2024.08.
安田雅俊 、森田祐介(NPO法人おいた生物多様性保全センター)、宮村栄一(大分生物談話会)、森澤猛	高島で繁殖が確認されたオオミズナギドリとカラスバト	大分合同新聞、2024年9月23日:5	2024.09.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
安田雅俊、仲谷淳((一社)鳥獣管理技術協会)	和歌山市のクリハラリスについて	森林野生動物研究会誌、49:17-20	2024.09.
安田雅俊、鈴木圭	塩類を用いたシカの捕獲と過去の鹿胎の利用	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2024)、:79(OA-12)	2024.09.
伊神裕司	タテとヨコのつながりで国産材資源の循環利用を目指す	木材工業、79(9):329	2024.09.
伊藤哲(宮崎大学)、原谷陽菜(宮崎大学)、中山葉月(宮崎大学)、平田令子(宮崎大学)、 <u>山岸極</u> 、溝口拓朗(宮崎大学)、 <u>山川博美</u>	ススキ型植生の被圧は落葉広葉樹型植生に比べて強く影響	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:20	2024.09.
伊藤哲(宮崎大学)、 <u>山岸極</u> 、 <u>山川博美</u> 、平田令子(宮崎大学)	成長に優れる苗なら常に下刈り省略が期待できるか	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:30	2024.09.
伊藤哲(宮崎大学)、平田令子(宮崎大学)、 <u>山岸極</u> 、溝口拓朗(宮崎大学)、 <u>山川博美</u>	スギ特定母樹中苗を活用した下刈り省略の可能性	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:22	2024.09.
岡本隆、古市剛久(森林総研PD)、渡壁卓磨、大澤光、村上亘、 <u>黒川潮</u>	ベトナムにおける治山施設の現状と日本の治山技術の適用可能性	日本地すべり学会研究発表会講演集、63:310-311	2024.09.
光武早紀(佐賀大学)、前原良美(佐賀大学)、 <u>木下晃彦</u> 、川口大朗(東京都)、向哲嗣(東京都)、Marutani Mari(グアム大学)、Fernandez Michael(グアム大学)、阿部篤志(沖縄美ら島財団)、梶田忠(琉球大学)、蘭光健人(東京大学)、遊川知久(国立科学博物館)、辻田有紀(佐賀大学)	トサカメオトランの海洋進出に関与した菌根菌の解明	日本植物学会大会研究発表記録、88:187(P-019)	2024.09.
<u>佐山勝彦</u> 、 <u>石原誠</u> 、 <u>安藤裕萌</u> 、 <u>安田雅俊</u>	令和5(2023)年の九州地域の森林病虫害発生状況	九州の森と林業、149:4-5	2024.09.
<u>山岸極</u>	九州の樹木シリーズ(9)	九州の森と林業、149:6	2024.09.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
山川博美	植栽木と周辺植生との競争関係の指標	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:19	2024.09.
山川博美、鶴崎幸 (福岡県農林業総合試験場)、 江島淳 (佐賀県林業試験場)、 柳本和哉 (長崎県農林技術開発センター)、 柴田麻美 (長崎県農林技術開発センター)、 吉本貴久雄 (長崎県農林技術開発センター)、 寺本聖一郎 (熊本県林業研究・研修センター)、 青木哲平 (熊本県林業研究・研修センター)、 小堀光輝 (熊本県林業研究・研修センター)、 河津温子 (大分県農林水産研究指導センター)、 高宮立身 (大分県農林水産研究指導センター)、 松本純 (大分県農林水産研究指導センター)、 上杉基 (宮崎県林業技術センター)、 穂山浩平 (鹿児島県森林技術総合センター)	九州での造林地の競合植生タイプと下刈り 要否の目安	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:17	2024.09.
山川博美、穂山浩平 (鹿児島県森林技術総合センター)	特定母樹による下刈り回数削減が有利と なる立地を探る	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:26	2024.09.
山川博美、野宮治人、白坂和雅 (株)南栄)、 山本敏博 (株)南栄)	下刈り時期の違いがスギ植栽木の成長に 与える影響	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:28	2024.09.
松本純 (大分県農林水産研究指導センター)、 山川博美 、 青田勝 (大分県農林水産研究指導センター)、 安部暖美 (大分県農林水産研究指導センター)、 加藤小梅 (大分県農林水産研究指導センター)	円形密度試験地で見られた林冠閉鎖のタ イミング	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:35	2024.09.
石原誠	細菌性樹木病害の早期診断法と被害回 避法	第1回樹木医実践技術 講座講座Aテキスト(令和 6年度)	2024.09.
村上茂樹	遮断蒸発は飛沫の蒸発によって樹冠の下 で生じる	水文・水資源学会研究 発表会要旨集(2024)、 OS-04-01	2024.09.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
村上茂樹	森林は大雨のときほど多くの雨水を蒸発させる	九州の森と林業、149:1-3	2024.09.
大谷達也、米田令仁、 福本桂子 、 山川博美	スギ特定母樹を使った下刈り省力の可能性検証	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:21	2024.09.
大谷達也、米田令仁、 福本桂子 、 山川博美	土壌や地形条件を利用した下刈り面積低減の可能性	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:27	2024.09.
中田富美(福岡農林試資源セ)、池田華優(福岡農林試資源セ)、茶木彩佳(福岡農林試資源セ)、 木下晃彦 、森康浩(福岡農林試資源セ)	エノキタケThaumatin-like protein遺伝子のトリコデルマ耐病性への関与	日本きのこ学会大会講演要旨集、27:100(P19)	2024.09.
鳥山淳平 、 酒井佳美	微地形と初期成長－スギと早生樹センダンの比較－	第5期中長期計画成果24(森林産業-10)植物の成長力を活かす！エリートツリーで下刈り省略－エリートツリーを使った下刈り省略のための試験研究事例集－、:15	2024.09.
藤原一道(国立遺伝学研究所)、鶴田燃海(12人中5番目)、 勝木俊雄 (12人中10番目)	オオシマザクラ(<i>Cerasus speciosa</i>)の完全ゲノムアセンブリによるセントロメア領域の解読	日本遺伝学会大会プログラム要旨集、96:口頭発表	2024.09.
平田泰雅、小野賢二、野口宏典、倉本恵生、 森大喜 、Thanh Tung Doan(ベトナム森林科学アカデミー)、Ngoc Thanh Pham(ベトナム森林科学アカデミー)、Thuy My Linh Nguyen(ベトナム森林科学アカデミー)、Tan Phuong Vu(ベトナム森林認証事務局)	Evaluation of Disaster Prevention and Mitigation Functions of Mangrove Forests against Storm Surge by Remote Sensing(リモートセンシングによる高潮に対するマングローブ林の防災・減災機能の評価)	ForestSAT 2024 Abstract Book、:212	2024.09.
堀沢栄(高知工大学)、十亀葉月(高知工大学)、 酒井佳美 、上村真由子(日本大学)、鵜川信(鹿児島大学)、徳地直子(京都大学)、稲垣哲也(名古屋大学)	森林地下環境における初期木材分解に係る微生物群集構造の解析－岩手と高知試験地の比較－	日本木材学会中国・四国支部研究発表会研究発表要旨集、35:43-44(P04)	2024.09.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
<u>野宮治人</u>	シカ被害軽減を目指した高下刈とは	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:36	2024.09.
<u>野宮治人</u>	高下刈りの作業性：軽労化と誤伐軽減	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:37	2024.09.
<u>野宮治人</u>	高下刈りの効果：雑草木の成長抑制とス ギの成長	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:38	2024.09.
<u>野宮治人</u>	高下刈りのシカ被害軽減効果	第5期中長期計画成果 24(森林産業-10)植物の 成長力を活かす！エリート ツリーで下刈り省略－エ リートツリーを使った下刈り 省略のための試験研究事 例集－、:39	2024.09.
<u>野宮治人</u> 、 <u>藤原由美子</u> (熊本市動植物園)、 <u>溝端菜穂子</u> (熊本市動植物園)、 <u>藤井妙子</u> (熊本市動植物園)	動物園を利用したカフェテリアテスト：シイ・ カシ類に対するシカの嗜好性	日本哺乳類学会大会ブ ログラム・講演要旨集 (2024)、:76(OA-05)	2024.09.
<u>鈴木圭</u>	モモンガ、マグロ、イワシ、そしてシカ	日本哺乳類学会大会ブ ログラム・講演要旨集 (2024)、:24-25	2024.09.
<u>鈴木圭</u> 、 <u>森大喜</u> 、 <u>山川博美</u>	塩水のメスジカ誘引効果の季節変化	日本哺乳類学会大会ブ ログラム・講演要旨集 (2024)、:80(OA-14)	2024.09.
AKAIKE Yuki(赤池友樹、宮崎大学)、ITO Satoshi(伊藤哲、宮崎大学)、 <u>YAMAGAWA Hiromi(山川博美)</u> 、 <u>YAMAGISHI Kiwamu(山岸極)</u> 、HIRATA Ryoko(平田令子、宮崎大学)	The effects of patch age and edges on understory tree distribution in uneven-aged conifer plantation formed by small-scale clearcuttin(小面 積皆伐が行われた針葉樹人工林における 下層植生の分布に対する林齢と林齢の影響)	Proceedings of the 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE 2024)、:160(TCR-P1)	2024.10.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
IKEDA Takefumi(池田武文・京都府立大学)、OKUDA Misaki(奥田岬・京都府立大学)、 ISHIHARA Makoto(石原誠) 、KON-NO Yasuo(紺野康夫・帯広畜産大学)	Effects of different light conditions on anatomical and histological features of galls in bacterial gall disease of <i>Cerasus yedoensis</i> (異なる光環境下で生じた染井吉野のこぶ病の組織学的、解剖学的特性)	Phytopathology、114(10):2196-2206	2024.10.
MORI Taiki(森大喜) 、Senhao Wang(中国科学院)、Cong Wang(中国科学院)、Wei Zhang(中国科学院)、Jiangming Mo(中国科学院)	Effect of long-term nitrogen addition on the kinetics of phosphatases in a subtropical forest in southern China(中国南部の亜熱帯林における長期窒素添加がホスファターゼの反応速度論に与える影響)	Applied Soil Ecology、202:105589	2024.10.
SASADA Keitaro(笹田敬太郎)	Who is responsible for managing rural resources in an aging society? and what administrative measures are necessary for this purpose?(高齢社会における農山村地域資源管理の担い手と関連する行政施策について)	East Asia Well Aging Center 1st Forest Therapy and Well-aging International Conference, "Challenges and Tasks in the Era of Super-aging"、:257-267	2024.10.
安田雅俊	宇土半島の特定外来生物クリハラリスの現状	自然観察指導員熊本県連絡会(自然観察くまもと)会報、192:13	2024.10.
安藤裕萌	森を枯らすー病気を起こす菌類たち	図説日本の森林(朝倉書店、216頁)、132-133	2024.10.
伊藤哲(宮崎大学)、 山川博美 、 山岸極 、平田令子(宮崎大学)、赤池友樹(宮崎大学)	スギ植栽木の樹冠拡大に与える競合植生の影響解析ー被圧の累積効果の評価にむけて	九州森林学会大会発表プログラム、80:造林304	2024.10.
一柳錦平(熊本大学理学部)、大竹樹生(熊本大学理学部)、 壁谷直記	水安定同位体用の自動採水器の開発	日本水文科学会学術大会講演予稿集(2024)、P13	2024.10.
稲葉光飛(宮崎大学)、伊藤哲(宮崎大学)、 山川博美 、 山岸極 、祁答院宥樹(鹿児島県)、平田令子(宮崎大学)	枝葉量を用いたスギ特定母樹の生産構造の定量評価と系統間比較	九州森林学会大会発表プログラム、80:育種414	2024.10.
欧陽春鳴(鹿大農)、加治佐剛(鹿大農)、寺岡行雄(鹿大農)、 福本桂子 、牧野耕輔(鹿大農)	下刈り回数および植栽密度の違いがスギ植栽木の幹曲がりに与える影響	九州森林学会大会発表プログラム、80:経営1713	2024.10.
岩本宏二郎、 勝木俊雄	サクラさし木の生存および発根に対する二酸化炭素施用の効果	関東森林学会大会講演要旨集、14:11(造林10)	2024.10.
近藤洋史 、 高橋與明	西郷温泉岳スギ収穫試験地における林分構造の変化	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:29	2024.10.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
<u>近藤洋史</u> 、 <u>高橋與明</u>	西郷温泉岳ヒノキ収穫試験地における林分構造の変化	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:30	2024.10.
<u>金谷整一</u> 、 <u>佐山勝彦</u> 、長友敬祐(熊本大学)、清田大誠(熊本大学)、戸田敬(熊本大学)、 <u>東川航</u> 、田島尚(九重ふるさと自然学校)、 <u>松永道雄</u>	熊本県におけるリュウキュウオオスカシバの2例目の記録	九州森林学会大会発表プログラム、80:保護906	2024.10.
<u>金谷整一</u> 、作田耕太郎(九州大学)	56. 西日本のブナ林(三郡山地(福岡県)、九州山地(熊本県・宮崎県)、紫尾山(鹿児島県))	図説日本の森林(朝倉書店、216頁)、85-86	2024.10.
古澤仁美、仲野翔太、 <u>中村慎崇</u> 、野口享太郎、山中高史	トリュフ菌定着苗木の植栽において苗木の定着に必要な土壌環境条件の検討	関東森林学会大会講演要旨集、14:29-30(特用4)	2024.10.
<u>高橋與明</u> 、 <u>近藤洋史</u>	西郷温泉岳スギ収穫試験地におけるRTKドローン空中写真測量	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:31	2024.10.
<u>高橋與明</u> 、 <u>近藤洋史</u>	西郷温泉岳ヒノキ収穫試験地におけるRTKドローン空中写真測量	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:32	2024.10.
<u>黒川潮</u> 、岡田康彦	伐採跡地に侵入する先駆性樹種を対象とした根の引き抜き試験	九州森林学会大会発表プログラム、80:防災501	2024.10.
<u>佐山勝彦</u> 、 <u>石原誠</u> 、 <u>安藤裕萌</u> 、 <u>安田雅俊</u>	令和5(2023)年の九州地域の森林病虫獣害発生状況	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:17-20	2024.10.
<u>佐山勝彦</u> 、 <u>東川航</u> 、 <u>木下晃彦</u>	キノコ摂食実験のためのセンコガネの飼育法	九州森林学会大会発表プログラム、80:76(保護908)	2024.10.
<u>山岸極</u> 、伊藤哲(宮崎大学農学部)、 <u>山川博美</u> 、平田令子(宮崎大学農学部)	スギ特定母樹系統の当年樹冠における枝の高さ分布の推定	九州森林学会大会発表プログラム、80:造林302	2024.10.
山崎桃花(九州大学)、作田耕太郎(九州大学)、 <u>金谷整一</u>	九州における豊作年でのブナ種子の特性	九州森林学会大会発表プログラム、80:造林312	2024.10.
<u>山川博美</u>	綾生物圏保存地域	図説日本の森林(朝倉書店、216頁)、:99	2024.10.
<u>山川博美</u> 、伊藤哲(宮崎大学)、 <u>山岸極</u> 、平田令子(宮崎大学)、羽田珠里(宮崎大学)	スギ若齢造林地における競争植物の移り変わり：林齢と下刈りスケジュールの影響	植生学会大会講演要旨集、29:73(P21)	2024.10.
<u>山川博美</u> 、伊藤哲(宮崎大学)、 <u>山岸極</u> 、平田令子(宮崎大学)、荒木眞岳、重永英年	スギ若齢木の当年成長に被圧樹冠はどの程度貢献しているか？	九州森林学会大会発表プログラム、80:造林303	2024.10.
<u>酒井佳美</u> 、堀沢栄(高知工科大学)、鶴川信(鹿児島大学)、徳地直子(京都大学)、上村真由子(日本大学)、稲垣哲也(名古屋大学)	樹木根の分解初期プロセスの分解速度への影響	九州森林学会大会発表プログラム、80:立地507	2024.10.
<u>勝木俊雄</u>	中部地方の氷期的針葉樹林－環境変動に耐えぬいてきた希少な森	図説日本の森林(朝倉書店、216頁)、:58	2024.10.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
勝木俊雄、 <u>山川博美</u> 、佐藤健誠(西臼杵林業活性化協議会)	宮崎県西臼杵地域におけるドローン播種用植物の選定と発芽条件	九州森林学会大会発表プログラム、80:61(造林313)	2024.10.
小山萌惟(宮崎大学)、伊藤哲(宮崎大学)、稲葉光飛(宮崎大学)、 <u>山川博美</u> 、 <u>山岸極</u> 、平田令子(宮崎大学)、赤池友樹(宮崎大学)、岩泉正和、久保田正裕	物質生産および力学的支持機能からみたスギ特定母樹4系統の樹形の比較	九州森林学会大会発表プログラム、80:育種416	2024.10.
小田三保(宮崎県林技セ)、 <u>安藤裕萌</u> 、 <u>石原誠</u> 、升屋勇人	水田跡に植栽されたスギの樹勢衰退	九州森林学会大会発表プログラム、80:保護901	2024.10.
<u>森大喜</u>	ティーバッグ法の推定精度を高める新手法の提案	九州森林学会大会発表プログラム、80:立地506	2024.10.
西園朋広、田中真哉、 <u>高橋與明</u> 、齋藤英樹、 <u>福本桂子</u>	航空機LiDARデータによる林分平均形状比・収量比数・相対幹距の推定に関する検討－茨城県・福岡県の一部地域の事例－	関東森林学会大会講演要旨集、14:4(経営1)	2024.10.
<u>鳥山淳平</u> 、 <u>酒井佳美</u> 、横尾謙一郎(熊本県)、 <u>森大喜</u> 、 <u>稲垣昌宏</u>	センダン間伐後の萌芽のバイオマス収量	九州森林学会大会発表プログラム、80:立地508	2024.10.
田中亘、 <u>笹田敬太郎</u> 、猪俣雄太、高山範理、御田成顕、片田陽菜(筑波大学)、山口広子(筑波大学)、都築伸行(林野庁)	林業作業における安全行動と技術習得に関する意識－アンケート調査結果から－	関東森林学会大会講演要旨集、14:3(林政4)	2024.10.
<u>東川航</u>	里山の赤トンボ数種における卵の孵化時期の違いおよび乾燥への適応	日本陸水学会熊本大会講演要旨集、88:74	2024.10.
飯田真一、清水貴範、玉井幸治、 <u>壁谷直記</u> 、 <u>清水晃</u> 、荒木誠、大貫靖浩、 <u>鳥山淳平</u> 、伊藤江利子、久保田多余子、田中憲蔵(国際農林水産業研究センター)、山中勤(筑波大学)、Sophal Chann(カンボジア野生生物研究所)、Delphis F. Levia(アメリカデラウェア大学)	土壌の乾燥がカンボジア乾燥落葉林の蒸散量に及ぼす影響	日本水文科学学会学術大会講演予稿集(2024)、P3	2024.10.
壁谷大介、宮本和樹、櫃間岳、荒木眞岳、 <u>山川博美</u> 、鶴崎幸(福岡県農林業総合試験場)、萩原晟也(福岡県農林業総合試験場)、檜崎康二(福岡県農林業総合試験場)	間伐の速やかな効果の有無を予測する指標	関東森林学会大会講演要旨集、14:10(造林8)	2024.10.
<u>壁谷直記</u> 、 <u>清水晃</u> 、清水貴範、一柳錦平(熊本大学理学部)、大竹樹生(熊本大学理学部)	時間別降雨採水装置により採取した降雨安定同位体比の時間変動特性	九州森林学会大会発表プログラム、80:防災504	2024.10.
<u>野宮治人</u>	ノウサギの剥皮被害痕の見分け方について	森林総合研究所九州支所年報(令和6年版)、36:25-28	2024.10.
<u>野宮治人</u>	緩効性肥料を施肥したスギ苗木の成長	九州森林学会大会発表プログラム、80:造林306	2024.10.
齋藤英樹、田中真哉、高橋正義、西園朋広、 <u>高橋與明</u>	航空機LiDARデータによる樹冠長の推定に関する検討－福岡県久留米市の事例－	関東森林学会大会講演要旨集、14:4(経営2)	2024.10.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
MURAKAMI Shigeki(村上茂樹)	Rainfall Interception Occurs Under the Canopy by Splash Droplet Evaporation: Revisiting Penman-Monteith Equation, Rutter and Gash Models(遮断蒸発は飛沫蒸発によって樹冠の下で起こる：ペンマン・モンティス式、ラターおよびガッシュモデルの再検討)	SSRN、DOI:10.2139/ssrn.5007516	2024.11.
OTAKE Tatsuki(大竹樹生・熊本大学理学部)、 ICHIYANAGI Kimpei(一柳錦平・熊本大学理学部)、 KABEYA Naoki(壁谷直記)	Intra-event changes in stable isotope ratios of precipitation using automatic samplers in 2023(2023年における自動降雨採取装置を用いた降雨安定同位体比の降雨イベント内変動)	The 19th International Student Conference On Advanced Science and Technology (ICAST) 2024 Taipei, 4-1	2024.11.
YUKAWA Tomohisa(遊川知久・国立科学博物館)、 TSUTSUMI Chie(堤知絵・国立科学博物館)、 YAMASHITA Yumi(山下由美・福島大学)、 RAMMITSU Kento(蘭光健人・東京大学)、YAGAME Takahiro(谷亀高広・昭和大学)、 KINOSHITA Akihiko(木下晃彦)、OGURA-TSUJITA Yuki(辻田有紀・佐賀大学)	Fungi play key roles in orchid conservation(ランの保全に果たす菌類の役割)	2024 Orchid Prospective Research and Industrial Development International Symposium	2024.11.
伊原徳子、内山憲太郎、 <u>金谷整一</u> 、陶山佳久(東北大農)、津村義彦(筑波大生命環境)	産地試験地におけるスギの遺伝子発現比較	森林遺伝育種学会大会講演要旨集、13:14(P13)	2024.11.
橋本徹、橋本昌司、阪田匡司、 <u>森大喜</u>	地掻き処理が土壌CO2とCH4フラックスに与える影響	北方森林学会大会研究発表プログラム、73:P-20	2024.11.
<u>勝木俊雄</u> 、山下香菜、鳥居正人、 <u>安藤裕萌</u> 、 <u>石原誠</u> 、 <u>酒井佳美</u> 、 <u>高橋與明</u>	簡易な写真測量を用いたメタセコイア切株のオルソ画像の合成	樹木医学会大会要旨集、29:59(P-23)	2024.11.
大貫靖浩、小林政広、 <u>稲垣昌宏</u> 、釣田竜也、 <u>清水晃</u> 、 <u>壁谷直記</u> 、清水貴範、山下尚之	北部九州低山帯における一次谷流域の土層厚分布と土壌物理特性	日本地形学連合発表要旨集(2024)、5(1):24(O19)	2024.11.
<u>中村慎崇</u> 、 <u>木下晃彦</u> 、小長谷啓介、山口宗義、古澤仁美、 <u>北出雄生</u> (森林総研PD)、山中高史	国内二か所の苗木植栽地に発生したホンセイヨウシロワの交配様式	菌根研究会大会講演要旨集(2024)、O12	2024.11.
<u>東川航</u> 、末吉正尚(国立環境研究所琵琶湖分室)	トンボの生息地ネットワーク保全－ミヤマアカネの研究例を中心に－	日本トンボ学会大会(滋賀大会)研究発表要旨集、:1	2024.11.
服部友香子、升屋勇人、 <u>安藤裕萌</u> 、市原優	スギ・ヒノキ・カラマツ苗立枯病菌Fusarium oxysporumの分類学的再評価	樹木医学会大会要旨集、29:51(P-15)	2024.11.
高橋由紀子、升屋勇人、服部友香子、山下聡、鳥居正人、 <u>安藤裕萌</u>	杭捕捉法による自然林内におけるナラタケ属菌の分布調査	樹木医学会大会要旨集、29:44(P-8)	2024.11.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
MORI Taiki(森大喜)	Is enzymatic stoichiometry a reliable indicator of microbial limitations in carbon, nitrogen, or phosphorus?(酵素の化学量論は、微生物の炭素、窒素、またはリンの制限を示す信頼できる指標か?)	Science of the Total Environment、955:176928	2024.12.
安田雅俊	別府市で見つかった外来種のリス	大分合同新聞、2024年12月16日:5	2024.12.
金谷整一、手塚賢至(屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊)、池亀寛治(種子島・ヤクタネゴヨウ保全の会)	ヤクタネゴヨウの調査、研究、保全および利活用の歴史	屋久島学ソサエティ大会プログラム、12:14	2024.12.
勝木俊雄	桜こぼれ話(6)加治木のサキシマ	Makino、130:6-7	2024.12.
森澤猛、前田史和(熊本野生生物研究会)、 安田雅俊	大分市高島で確認されたイノシシについて	大分合同新聞、2024年12月23日:5	2024.12.
仲谷淳((一社)鳥獣管理技術協会)、佐々木歩(和歌山県立博物館)、岡田和久(根来山げんきの森)、幸田良介(大阪府立環境農林水産総合研究所)、 安田雅俊	和歌山県「根来山げんきの森」における中・大型哺乳類相	南紀生物、66(2):143-148	2024.12.
NAKAMURA Noritaka(中村慎崇)、KINOSHITA Akihiko(木下晃彦)、NAKANO Shota(仲野翔太・森林総研PD)、FURUSAWA Hitomi(古澤仁美)、OBASE Keisuke(小長谷啓介)、YAMAGUCHI Muneyoshi(山口宗義)、NOGUCHI Kyotaro(野口享太郎)、KITADE Yuki(北出雄生・森林総研PD)、YAMANAKA Takashi(山中高史)	Cultivation and mating of the truffle Tuber japonicum in plantations of ectomycorrhizal Quercus serrata seedlings(コナラ苗木植栽地におけるホンセイイロウシウロの栽培と交配)	Applied and Environmental Microbiology、91(2):17	2025.01.
TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、NAKAO Katsuhiro(中尾勝洋)、SAITOH M.Taku(斎藤琢・岐阜大学)、NISHIZONO Tomohiro(西園朋広)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、ARAKI G. Masatake(荒木眞岳)、MURAKAMI Wataru(村上亘)、HIRATA Yasumasa(平田泰雅)	Management strategies for shrinking and aging tree plantations are constrained by the synergies and trade-offs between carbon sequestration and other forest ecosystem services(縮小し高齢化する人工林の管理戦略は炭素固定と他の生態系サービスのシナジーとトレードオフにより決まる)	Journal of Environmental Management、373:123762	2025.01.
安田雅俊、橋本幸彦(九州医療科学大学)、宮村栄一(大分生物談話会)、森澤猛、森田祐介(NPO法人おおいた生物多様性保全センター)、安田晶子(熊本県博物館ネットワークセンター)	高島で記録されたヒメボタル	大分合同新聞、2025年1月27日:5	2025.01.
勝木俊雄、寺澤秀治(フォトグラファー)	早春の熊野古道を彩る クマノザクラフィールドブック(解説)	早春の熊野古道を彩る クマノザクラフィールドブック、:1-48	2025.01.
村上茂樹	森林は大雨のときほど多くの雨水を蒸発させて洪水を緩和する	BIO九州、242:7-11	2025.01.
猪俣雄太、中田知沙、山口浩和、北原文章、 福本桂子	列状間伐における受け口・追い口の形状の実態把握	森林利用学会誌、40(1):21-30	2025.01.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
<u>鳥山淳平</u>	森林生態系の裏通りを歩くー土壌炭素をモニタリングし、増やすための森林管理を探る研究ー	森林と林業、2025年1月号:14-15	2025.01.
FUJIWARA Kazumichi(藤原一道・国立遺伝学研究所)、TSURUTA Momi(鶴田燃海・12人中5番目)、 <u>KATSUKI Toshio(勝木俊雄・12人中10番目)</u>	A near complete genome assembly of the Oshima cherry <i>Cerasus speciosa</i> (オオシマザクラの完全ゲノムアセンブリ)	Scientific Data、12:162	2025.02.
<u>FUKUMOTO Keiko(福本桂子)</u> 、NISHIZONO Tomohiro(西園朋広)、KITAHARA Fumiaki(北原文章)	Intra-specific variation in mortality of even-aged <i>Cryptomeria japonica</i> (L. f.) D. Don. forests can be explained using relationships among long-term stand characteristics(スギ同齢林における枯死率の種内変動は長期的な林分特性間の関係性を用いて説明できる)	Annals of forest science、82:3	2025.02.
HACHISUKA Rico(蜂須賀莉子・鹿児島大学)、SEINO Hiroto(清野浩人・鹿児島大学)、HIEJIMA Shoma(比江島尚真・鹿児島大学)、TAKASHIMA Atsushi(高島敦史・琉球大学)、ENOKI Tsutomu(榎木勉・九州大学)、KAWAI Kei(河合溪・鹿児島大学)、 <u>SAKAI Yoshimi(酒井佳美)</u> 、UGAWA Shin(鵜川信・鹿児島大学)	Functional traits of leaf and fine root depending on the tree species adapted to different topography in a subtropical evergreen forest(亜熱帯照葉樹林での異なる地形に適応した樹種の葉と細根の機能特性)	European Conference of Tropical Ecology 2025、:121	2025.02.
HIRATA Yasumasa(平田泰雅)、 <u>TORIYAMA Junpei(鳥山淳平)</u> 、UJINO-IHARA Tokuko(伊原徳子)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、MURAKAMI Wataru(村上亘)、TSUNETAKA Haruka(経隆悠)、NISHIZONO Tomohiro(西園朋広)、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、MORI Hideki(森英樹)	Chapter 6 Projection of Climate Change Impacts and Evaluation of Adaptation Options for Forestry(第6章 気候変動の影響予測と林業への適応策の評価)	Climate Change Impacts and Adaptation Strategies in Japan - Integrated Research toward Climate Resilient Society -(Springer、359頁)、:75-91	2025.02.
<u>MORI Taiki(森大喜)</u>	Does extending the incubation period really improve the accuracy of the Tea Bag Index as a measure of soil health?(培養期間延長によって、Soil Healthの尺度としてのティーバッグ指数の精度は本当に向上するのか?)	Applied Soil Ecology、206:105837	2025.02.
UCHIYAMA Kentaro(内山憲太郎)、UJINO-IHARA Tokuko(伊原徳子)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、 <u>TORIYAMA Junpei(鳥山淳平)</u> 、HASHIMOTO Shoji(橋本昌司)、TSUMURA Yoshihiko(津村義彦・筑波大学)	Climate-associated genetic variation and projected genetic offsets for <i>Cryptomeria japonica</i> D. Don under future climate scenarios(スギの気候関連遺伝変異と将来気候下での遺伝的オフセットの予測)	Evolutionary Applications、2025;18:e70077	2025.02.
<u>森大喜</u> 、野口宏典	3章 マングローブの多面的機能	マングローブ保全・再生の手引きー高潮災害軽減の観点からー、:17-20	2025.02.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
Benedictus Reynaldo Hartanto(名古屋大学)、 <u>SAKAI Yoshimi(酒井佳美)</u> 、NEBASHI Aimi(名古屋大学)、INAGAKI Tetsuya(稲垣哲也・名古屋大学)	Spatial Variability in Wood Degradation Dynamics of Japanese Cedar:An Integrated Analysis of Physical and Chemical Attributes using X-ray CT and Hyperspectral Imaging(スギ材の劣化動態における空間的変動：X線CTとハイパースペクトラルイメージングを用いた物理的および化学的属性の統合分析)	International Symposium on Wood Science and Technology 2025、8BP-OP-04	2025.03.
James R.P. WORTH(ワースジェームズ)、石川直子(東北大学)、菊地賢、 <u>金谷整一</u> 、高橋大樹(九州大学)、Elena A. Marchuk(FEB RASの植物園研究所)、Hyeok Jae Choi(昌原国立大学)、陶山佳久(東北大学)、津村義彦(筑波大学)	Comparative phylogeography of subalpine forest angiosperms in Japan and implications for conservation(日本における亜高山帯林被子植物の比較系統地理学と保全への示唆)	日本森林学会大会講演要旨集、136:225(PF-15)	2025.03.
JOMURA Mayuko(上村真由子・日本大学)、 <u>SAKAI Yoshimi(酒井佳美)</u> 、UENO Mio(上野美桜・日本大学)、SAWAYAMA Eitaro(澤山英太郎・日本大学)、TOKUCHI Naoko(徳地直子・京都大学)、HASHIMOTO Toru(橋本徹)、NOGUCHI Kyotaro(野口享太郎)、TAKAGI Masahiro(高木正博・宮崎大学)、UGAWA Shin(鵜川信・鹿児島大学)	Decomposer Diversity and Its Impact on Carbon Sequestration Function in Forest Ecosystems(森林生態系における分解者の多様性と炭素隔離機能への影響)	日本生態学会大会講演要旨、72:C02-07	2025.03.
<u>安田雅俊</u> 、中藺洋行(熊本県博物館ネットワークセンター)	祖母山系(熊本県高森町)における地上性小型哺乳類の捕獲調査	熊本県博物館ネットワークセンター紀要、5:49-51	2025.03.
<u>安藤裕萌</u> 、鈴木浩之(新潟食料農業大学)、升屋勇人	拡大造林期に発生していたスギ赤枯病菌の遺伝的多様性	日本森林学会大会講演要旨集、136:167(M-13)	2025.03.
<u>伊神裕司</u>	52 新たな設備投資を伴わない心去り平角の製材コスト低減策	森林産業実用化カタログ2025、:27	2025.03.
<u>伊神裕司</u>	47 大径材から生産される製材品の強度を丸太段階で予測する技術を開発	森林産業実用化カタログ2025、:25	2025.03.
伊藤哲(宮崎大学農学部)、田村弥和(宮崎大学農学部)、 <u>山岸極</u> 、 <u>山川博美</u> 、平田令子(宮崎大学農学部)	スギ幼齢植栽木の期間成長量はいつまでも期首形状比に支配される	日本森林学会大会講演要旨集、136:209(PE-15)	2025.03.
稲葉光飛(宮崎大学)、伊藤哲(宮崎大学)、 <u>山川博美</u> 、 <u>山岸極</u> 、祁答院宥樹(鹿児島県)、平田令子(宮崎大学)	スギ幼齢造林木の被圧に対する樹冠発達の可塑性は系統によって異なる	日本森林学会大会講演要旨集、136:210(PE-16)	2025.03.
岡本隆、村上亘、古市剛久、道中哲也、渡壁卓磨、大澤光、鈴木秀典、山口智、宗岡寛子、 <u>黒川潮</u>	ベトナム北部山岳地の土地利用に基づく治山計画の検討	日本森林学会大会講演要旨集、136:263(PJ-37)	2025.03.
岩本宏二郎、 <u>勝木俊雄</u>	サクラ挿し木の生存および発根に対する二酸化炭素施用の効果	関東森林研究、76:49-52	2025.03.
久保田多余子、香川聡、 <u>壁谷直記</u> 、高梨聡、安田幸生、清水貴範、飯田真一、岩上翔、小田智基、鈴木春花(森林総研PD)	年輪から復元した蒸散量と長期水文気象データから計算した蒸発散量との比較	日本森林学会大会講演要旨集、136:266(PJ-49)	2025.03.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
橋本徹、橋本昌司、阪田匡司、 森大喜	地掻き処理が土壌CO ₂ とCH ₄ フラックスに与える影響	北方森林研究、73:45-48	2025.03.
金谷整一 、手塚賢至(屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊)、池亀寛治(種子島・ヤクタネゴヨウ保全の会)、秋庭満輝、中村克典	マツ材線虫病による絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの衰退	日本森林学会大会講演要旨集、136:92(T1-1)	2025.03.
古澤仁美、仲野翔太、 中村慎崇 、野口享太郎、山中高史	トリュフ菌共生苗木の植栽において苗木の定着に必要な管理条件の検討	関東森林研究、76:165-168	2025.03.
高橋與明	森林の3次元データの利用目的とその精度について	日本森林学会大会講演要旨集、136:97(T3-7)	2025.03.
黒川潮 、岡田康彦	伐採跡地に侵入する先駆性樹種を対象とした根の引き抜き試験	九州森林研究、78:121-124	2025.03.
佐藤雅彦(利尻町立博物館)、 佐山勝彦	利尻島からのオオスズメバチの記録	利尻研究、44:91-92	2025.03.
才木真太郎、Anna Ile(Poznan University of Life Sciences)、 安藤裕萌 、佐橋憲生(日本大学)、南光一樹	うどん粉病が葉表面の濡れ性に与える影響	日本森林学会大会講演要旨集、136:287(PM-27)	2025.03.
笹田敬太郎 、森井拓哉、御田成顕、林宇一(宇都宮大学)	センサスからみた森林組合による素材生産の伸びと川下側の木材需給との関係	日本森林学会大会講演要旨集、136:183(PA-14)	2025.03.
山下聡、服部友香子、升屋勇人、服部力、鳥居正人、綾部慈子、市原優、 安藤裕萌	スギ林における森林環境と樹木病害発生状況との関係：東北地方での一事例	日本森林学会大会講演要旨集、136:167(M-16)	2025.03.
山岸極 、伊藤哲(宮崎大学農学部)、原谷日菜(北海道大学大学院環境科学院)、 山川博美 、平田令子(宮崎大学農学部)	雑草木との競合状態に基づくスギ幼齢木の被圧樹冠量の推定	日本森林学会大会講演要旨集、136:210(PE-19)	2025.03.
山口宗義、 中村慎崇 、 北出雄生 (森林総研PD)、 木下晃彦 、山中高史	土壌DNAを指標にした日本産黒トリュフ <i>Tuber himalayense</i> 定量方法の確立	日本森林学会大会講演要旨集、136:165(M-8)	2025.03.
山川博美 、山浦悠一	九州・四国での保持林業：保持木の種組成とサイズから可能性と課題を考える	日本森林学会大会講演要旨集、136:78(S1-7)	2025.03.
勝木俊雄 、 山川博美 、佐藤健誠(西臼杵林業活性化協議会)	宮崎県西臼杵地域におけるUAV播種用植物の選定と発芽条件	九州森林研究、78:83-88	2025.03.
升屋勇人、服部友香子、 安藤裕萌 、市原優	スギ苗木病害の再評価	日本森林学会大会講演要旨集、136:167(M-15)	2025.03.
小野晶子(静岡大学)、 木下晃彦 、宮崎和弘、秋庭満輝、平井浩文	シイタケの耐病性に関する遺伝学的研究と相互作用の解明	日本農芸化学会大会(2025)、3E083	2025.03.
上田明良、後藤秀章、 金谷整一 、 安田雅俊	クリハラリスの生息する小島と生息しない対岸の半島の間の昆虫相の比較	日本森林学会大会講演要旨集、136:275(PL-12)	2025.03.
森大喜 、橋本昌司、阪田匡司、橋本徹、森下智陽、石塚成宏、伊藤優子、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之	森林土壌におけるメタンフラックスデータベース構築に向けた展望	日本森林学会大会講演要旨集、136:151(I-13)	2025.03.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
神原広平、 酒井佳美	ヤマトシロアリ営巣木を導入した野外試験地の被害の推移－シロアリバイト剤施用後の変化(2)－	日本木材学会大会研究発表要旨集、75:N19-P-04	2025.03.
清水貴範、伊藤江利子、 壁谷直記 、飯田真一、宮沢良行(九州大学)、田中憲蔵(JIRCAS)、植山雅仁(大阪公立大)、玉井幸治、大貫靖浩、 清水晃	劣化が進行しつつある熱帯乾燥常緑林でのCO2収支：劣化以前とどう変わった？	日本森林学会大会講演要旨集、136:155(J-17)	2025.03.
西園朋広、田中真哉、 高橋與明 、齋藤英樹、 福本桂子	航空機LiDARデータによる林分平均形状比・収量比数・相対幹距の推定に関する検討－茨城県・福岡県の一部地域の事例－	関東森林研究、76:13-16	2025.03.
西園朋広、北原文章、細田和男、鹿又秀聡、山田祐亮、志水克人、 福本桂子 、久保山裕史、岡裕泰	日本のスギ林における最適伐期の地理的分布	日本森林学会大会講演要旨集、136:191(PD-2)	2025.03.
石原誠	宮崎県のヤナギ植栽試験地で発生したいくつかの病害とその対策について	日本森林学会大会講演要旨集、136:286(PM-24)	2025.03.
石原誠 、斎藤秀之、原山尚徳	サクラ類こぶ病に対する光発病抑制の機作に関する検討	日本植物病理学会大会講演要旨予稿集(令和7年度)、:129(514)	2025.03.
石崎涼子、御田成顕、 笹田敬太郎	森林管理業務の担当者が持つ知識に対する認識	日本森林学会大会講演要旨集、136:110(A-21)	2025.03.
川西あゆみ(森林総研非常勤職員)、古澤仁美、 酒井佳美 、石塚成宏、今矢明宏、相澤州平、三浦覚、大貫靖浩、田中永晴、小林政広、志知幸治、橋本昌司、岡本透、溝口岳男	施業が枯死木を介して土壌炭素蓄積に与える影響の解析	日本森林学会大会講演要旨集、136:247(PI-5)	2025.03.
鷹尾元、岡田康彦、 高橋與明 、壁谷大介、村上亘、高橋正義、齋藤英樹、宮本和樹、榎間岳、宇都木景子(茨城県林業技術センター)、前川直人(茨城県林業技術センター)、小野澤郁佳(福岡県農林業総合試験場)、榎崎康二(福岡県農林業総合試験場)、桑野泰光(福岡県農林業総合試験場)、伊藤尚輝(福岡県農林業総合試験場)	意思決定支援技術を自治体に届ける－研究成果の橋渡しに向けた試行錯誤－	日本森林学会大会講演要旨集、136:109(A-19)	2025.03.
鳥山淳平 、 酒井佳美 、横尾謙一郎(熊本県)、 森大喜 、 稲垣昌宏	センダン間伐後の萌芽の地上部バイオマスの収量	九州森林研究、78:117-120	2025.03.
東川航	里山の赤トンボ数種の分布と森林景観との関係	日本生態学会大会講演要旨、72:P3-205	2025.03.
陶山大志(島根中山間研セ)、市原優、 安藤裕萌	コンテナ苗で発生したスギ赤枯病の病徴と発生地での治療事例	日本森林学会大会講演要旨集、136:166(M-12)	2025.03.
内山憲太郎、伊原徳子、中尾勝洋、 鳥山淳平 、橋本昌司、津村義彦(筑波大学)	スギの気候適応遺伝変異と将来気候下での影響予測	日本森林学会大会講演要旨集、136:223(PF-8)	2025.03.
八木貴信	熊本地方における管理不足人工林の森林構造と間伐方法の検討	日本森林学会大会講演要旨集、136:209(PE-13)	2025.03.

(*)令和6年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
服部友香子、市原優、 <u>安藤裕萌</u> 、升屋勇人	主要造林樹種から分離された暗色枝枯病菌の再評価	日本森林学会大会講演要旨集、136:167(M-14)	2025.03.
<u>福本桂子</u> 、才木真太郎、森英樹、鄭峻介	霧がアカエゾマツの長期直径成長に与える影響	日本森林学会大会講演要旨集、136:194(PD-12)	2025.03.
<u>壁谷直記</u> 、 <u>清水晃</u> 、 <u>酒井佳美</u> 、 <u>鳥山淳平</u> 、釣田竜也、小林政広、清水貴範、飯田真一、大貫靖浩、一柳錦平(熊本大学)	九州北部の結晶片岩からなる森林流域における洪水流出の成分分離	九州森林研究、78:125-128	2025.03.
<u>北村兼三</u>	アメダス日照時間データを用いた日射量欠測値の補完－アメダス日照時間が推計値になったことによる影響－	九州森林研究、78:187-188	2025.03.
榎山智咲(宮崎大学農学部)、伊藤哲(宮崎大学農学部)、原谷日菜(北海道大学大学院環境科学院)、 <u>山岸極</u> 、 <u>山川博美</u> 、平田令子(宮崎大学農学部)	下刈り期間における競合植生の変化がスギ幼齢木の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会講演要旨集、136:211(PE-23)	2025.03.
<u>野宮治人</u>	43 シカによる林業被害防護手法の最適化	森林産業実用化カタログ 2025、:22	2025.03.
<u>野宮治人</u> 、 <u>山川博美</u> 、 <u>山岸極</u>	九州の人工林伐採後の未植栽地に成立した二次林の林分構造の変化(予報)	日本森林学会大会講演要旨集、136:139(E-22)	2025.03.
齋藤隆実、香川聡、 <u>山川博美</u> 、壁谷大介	茨城県のスギ人工林において斜面位置による苗木の成長の違いとその要因	日本生態学会大会講演要旨、72:102-10	2025.03.

受託出張

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
「2024全国さくらシンポジウム in 桜川」での記念講演出席	桜川市	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	茨城県 桜川市	2024. 04. 04
熊本県における特定外来生物アライグマ対策に関する専門家派遣	NP0法人くまもと未来ネット	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2024. 04. 06
令和5年度補正「CLT等木質建築部材技術開発・普及事業」検討委員会出席	木構造振興株式会社	支所長 伊神裕司	東京都 千代田区	2024. 04. 10
種苗法に基づく出願品種の現地調査	農林水産省輸出・国際局	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	山形県 東置賜郡 高島町	2024. 04. 15～ 04. 17
第69回木材加工技術賞・第23回市川賞選考委員会出席	公益社団法人 日本木材加工技術協会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 04. 17
木材産業における外国人材の受入れに関する委託事業検討会（第1回）出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 04. 25
令和6年度作業安全強化促進支援事業検討会議（第1回）出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 04. 25
種苗法に基づく出願品種の現地調査	農林水産省輸出・国際局	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	山形県 東置賜郡 高島町	2024. 04. 25～ 04. 27
令和6年度樹木医研修受講者選抜試験委員会（第1回）出席	一般財団法人 日本緑化センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 04. 26
令和6年度（2024年度）宇土半島におけるタイワンリス防除等連絡協議会出席	熊本県農林中央広域本部 宇城地域振興局	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本県 宇城市	2024. 04. 26
種苗法に基づく出願品種の現地調査	農林水産省輸出・国際局	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	山形県 東置賜郡 高島町	2025. 05. 02
令和6年度（2024年）第1回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察出席	熊本県環境影響評価審査会	地域研究監 酒井佳美	熊本県 上益城郡 山都町	2024. 05. 07
第58回理事会出席	公益社団法人 日本木材加工技術協会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 05. 14
長崎県南島原市南有馬町大抜地区の災害調査	長崎県	山地防災研究グループ長 黒川潮	長崎県 南島原市	2024. 05. 17
日本森林学会2024年度第2回理事会へのオブザーバー参加 日本森林学会2024年定時総会への出席	一般社団法人 日本森林学会	森林生態系研究グループ 山岸極	オンライン	2024. 05. 22
令和6年全国食用きのこ種菌協会研修会への出席	全国食用きのこ種菌協会	森林微生物管理研究グループ長 木下晃彦	東京都 中央区	2024. 05. 23
令和5年度補正「CLT等木質建築部材技術開発・普及事業」第2回検討委員会出席	木構造振興株式会社	支所長 伊神裕司	東京都 千代田区	2024. 05. 24
ビオトープ造成における植栽方針指導	JFEスチール株式会社 知多製造所	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	愛知県 半田市	2024. 05. 24
第3回熊本市盛土対策検討委員会出席	熊本市	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2024. 05. 27
「県営林内希少動物モニタリング調査」に係る現地調査及び指導	沖縄県	森林動物研究グループ 小高信彦	沖縄県 名護市 国頭村 那覇市	2024. 05. 29～ 05. 30

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
令和6年度樹木医研修受講者選抜試験委員会（第2回）出席	一般財団法人 日本緑化センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 05. 31
非破壊検査事業令和5年度木材製品の消費拡大対策のうちCLT建築実証支援事業のうちCLT等木質建築部材技術開発・普及事業における実施事業名「スギ大径材需要拡大のための最適（低コストかつ高品質）な木取りの検討」の検討委員出席第1回検討委員会出席	一般社団法人 高知県木材協会	支所長 伊神裕司	高知県 高知市	2024. 06. 04
非破壊検査事業第1回検討委員会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 06. 06
令和6年度（2024年）第2回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察出席	熊本県環境影響評価 審査会	地域研究監 酒井佳美	熊本県 水俣市	2024. 06. 07
令和6年度鹿児島県森林技術総合センター研究開発推進委員会出席	鹿児島県森林技術総 合センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 06. 12
令和6年度（2024年）第2回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察出席	熊本県環境影響評価 審査会	地域研究監 酒井佳美	水俣市	2024. 06. 13
令和6年度大分県カモシカ保護管理事業推進協議会出席	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分市	2024. 06. 18
大分市高島におけるクリハラリス防除担当者会議出席	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分市	2024. 06. 18
令和6年度第1回九州森林管理局技術開発委員会出席	九州森林管理局	地域研究監 酒井佳美	オンライン	2024. 06. 18
樹木医学会103回編集会議出席	樹木医学会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 06. 19
樹木医学会103回編集会議出席	樹木医学会	森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2024. 06. 19
第1回大径材利用戦略策定会議出席	一般社団法人 高知県木材協会	支所長 伊神裕司	高知県 高知市	2024. 06. 20
持続可能な森林造成支援システムの構築事業検討委員会（第1回）出席	森林資源研究セン ター	チーム長（土壌環境評価担当） 稲垣昌宏	沖縄県 名護市	2024. 06. 25
令和6年度理事会及び通常総会出席	九州バイオリサーチ ネット	支所長 伊神裕司	熊本市	2024. 06. 26
「令和6年度森林整備事業における補助金の申請・検査のデジタル化に向けたガイドライン作成等委託事業」第一回事業推進委員会出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2024. 07. 04
熊本県における特定外来生物アライグマ対策に関する専門家派遣	NPO法人 くまもと未来ネット	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2024. 07. 13
令和6年度作業安全強化促進支援事業第2回検討会議出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	東京都	2024. 07. 17
外国人技能実習第1回合同委員会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	東京都	2024. 07. 17
木材産業における外国人材の受入れに関する委託事業第2回検討会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	東京都	2024. 07. 17
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける現地調査等への出席助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2024. 07. 22
第3回枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格の制定等の原案作成検討会出席	独立行政法人 農林水産消費安全技 術センター	支所長 伊神裕司	さいたま市	2024. 07. 25

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
令和6年度第4版沖縄県版レッドデータブック 保全が必要な生息地等ワーキンググループ会 議（第3回）出席	沖縄県	森林動物研究グループ 小高信彦	オンライン	2024. 07. 30
令和6年度九州森林管理局事業評価技術検討 会（完了後の評価）出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2024. 07. 31
令和6年度第1回事例集等改訂委員会出席	一般社団法人 日本樹木医会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 08. 03
熊本県林業研究・研修センターの令和6年度 研究課題選定・評価等外部評価委員会議出席	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2024. 08. 05
令和6年度樹木医研修受講者選抜試験委員会 （第3回）出席	一般財団法人 日本緑化センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 08. 16
作業安全強化促進支援事業の中央研修会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 08. 27
樹木医学会104回編集会議出席	樹木医学会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 08. 27
樹木医学会104回編集会議出席	樹木医学会	森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2024. 08. 27
森林分野CPDプログラムの講師依頼	公益社団法人 森林・自然環境技術 教育研究センター	山地防災研究グループ長 黒川潮	オンライン	2024. 09. 05
台風10号による豪雨で林地崩壊が発生した箇 所の実態把握及び治山対策検討にかかる現地 調査	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	大分県 由布市 別府市	2024. 09. 10 ~ 09. 11
第30回日本木材学会九州支部大会（久留米） 公開シンポジウムでの講演	一般社団法人 日本木材学会	支所長 伊神裕司	福岡県 久留米市	2024. 09. 12
宮崎県環境森林部試験研究等連絡調整会議外 部評価委員会出席	宮崎県	地域研究監 酒井佳美	宮崎県 東臼杵郡 美郷町	2024. 09. 12
令和6年度大分県クリハラリス生息状況調査 及びクリハラリス防除実施計画に係る助言	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2024. 09. 19
九州中央エリア・アライグマ防除戦略検討会 議出席	一般財団法人 自然環境研究セン ター	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2024. 09. 24
令和6年度樹木医研修における「Web交流会 （1、2期）」への出席（樹木医研修講師と して）	一般財団法人 日本緑化センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 09. 25
樹木医学会第3回理事会出席	樹木医学会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 09. 26
樹木学の非常勤講師	国立大学法人 東京大学	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄		2024. 10. 01 ~ 11. 30
大分森林管理署管内：「多様な森づくり（見 える化）プロジェクト」に係る面的複層林施 業試行地での現地調査等への出席助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	大分県 豊後大野市	2024. 10. 08 ~ 10. 09
令和6年度樹木医研修における「Web交流会 （1、2期）」への出席（樹木医研修講師と して）	一般財団法人 日本緑化センター	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 10. 09
外国人技能実習第3回合同委員会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 10. 09
作業安全強化促進支援事業第3回検討会議出 席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 10. 09

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
木材産業における外国人材の受入れに関する委託事業第3回検討会出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2024. 10. 09
「令和6年度森林整備事業における補助金の申請・検査のデジタル化に向けたガイドライン作成等委託事業」ガイドライン案検討会出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	大分県 日田市	2024. 10. 10 [～] 10. 11
令和6年度第1回九州森林管理局保護林管理委員会出席	九州森林管理局	支所長 伊神裕司 森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 都城市	2024. 10. 15 [～] 10. 16
令和6年度（2024年度）宇土半島におけるタイワンリス防除等連絡協議会捕獲対策実施に係る打ち合わせ会出席	熊本県県央広域本部 宇城地域振興局	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本県 宇城市	2024. 10. 16
スギ大径材最適木取り実証事業第2回検討委員会出席	一般社団法人 高知県木材協会	支所長 伊神裕司	高知県 高知市	2024. 10. 17
浜松市クリハラリス対策協議会第9回会議出席	浜松市	森林動物研究グループ長 安田雅俊	静岡県 浜松市	2024. 10. 17
令和6年度佐賀県林業試験場研究評価会議出席	佐賀県林業試験場	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	佐賀県 佐賀市	2024. 10. 18
令和6年度第2回事例集等改訂委員会出席	一般社団法人 日本樹木医会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2024. 10. 19
令和6年度治山・林道工事コンクール最終審査委員会出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2024. 10. 28
林業技士研修講師 林産部門「製材技術」	一般社団法人 日本森林技術協会	支所長 伊神裕司	東京都 千代田区	2024. 10. 30
令和6年度（2024年）第3回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察の実施及び出席	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2024. 11. 01
重要生態系監視地域モニタリング推進事業（森林・草原調査）検討会への調査関係者として出席	一般財団法人 自然環境研究センター（委託：環境省）	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2024. 11. 01
令和6年度生物多様性保全研修の講師	林野庁 森林技術総合研修所	森林生態系研究グループ 山川博美	東京都 八王子市	2024. 11. 13 [～] 11. 15
令和6年度生物多様性保全研修の講師（現地演習）	林野庁 森林技術総合研修所	森林生態系研究グループ 山川博美	山梨県 都留市	2024. 11. 14
令和6年度ノグチゲラ保護増殖事業ワーキンググループ会合出席	九州地方環境事務所 沖縄奄美自然環境事務所	森林動物研究グループ 小高信彦	沖縄県 浦添市	2024. 11. 14
夏季に実施する下刈りの作業負担を軽減するため、下刈り実施時期の見直しの検討を進めているなかで、過去の研究例等、下刈りについての概論の講演	森林整備センター 中国四国整備局	森林資源管理研究グループ 福本桂子	岡山県 岡山市	2024. 11. 18
庄原市東城町で発生しているエドヒガンのこぶ症状の現地調査	花咲ジイバアの会	チーム長（樹木病態生理担当） 石原誠	広島県 庄原市	2024. 11. 21
熊本県森林審議会出席	熊本県	支所長 伊神裕司	熊本市	2024. 11. 25
長崎県平戸市主師町白石地区の地すべり対策に係る設計方針等検討会への出席	長崎県	山地防災研究グループ長 黒川潮	長崎県 佐世保市	2024. 11. 27
第8回熊本県アライグマ防除等連絡会議出席	熊本県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2024. 11. 28

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
硫黄山（えびの高原）が噴火し白濁が発生した箇所の実態把握及び治山対策検討にかかる現地調査	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	宮崎県 えびの市	2024. 12. 04
「作業安全強化促進支援事業」地域研修	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	大阪市	2024. 12. 04～ 12. 05
宮崎演習林協議会における「造林地におけるシカ被害防除対策」に関する講演および現地視察・意見交換	国立大学法人 九州大学	森林生態系研究グループ長 野宮治人	宮崎県 東臼杵郡 椎葉村	2024. 12. 05～ 12. 06
令和6年度緑の雇用担い手確保支援事業の現場管理責任者（フォレストリーダー）集合研修（12月）の講師	公益財団法人 熊本県林業従事者育成基金（熊本県林業労働力確保支援センター）	森林生態系研究グループ 山川博美	熊本市	2024. 12. 05
立田山山頂有効利活用に向けた検討委員会出席	熊本県	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	熊本市	2024. 12. 06
大分県森林審議会出席	大分県	森林資源管理研究グループ 近藤洋史	大分県 大分市	2024. 12. 13
令和6年度第2回九州森林管理局技術開発委員会出席	九州森林管理局	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2024. 12. 16
庄原市東城町で発生しているエドヒガンのこぶ症状の現地調査	花咲ジイバアの会	チーム長（樹木病態生理担当） 石原誠	広島県 庄原市	2024. 12. 17
「令和6年度森林整備事業における補助金の申請・検査のデジタル化に向けたガイドライン作成等委託事業」第二回事業推進委員会出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2024. 12. 23
「古座川町桜を活かした町づくり推進会議」の委員として委員会出席	古座川町	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	和歌山県 古座川町	2024. 12. 25
第4回枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格の制定等の原案作成検討会出席	独立行政法人 農林水産消費安全技術センター	支所長 伊神裕司	さいたま市	2025. 01. 09
森林整備センター令和6年度第3回情報交換会における講演	森林整備センター	森林生態系研究グループ 山岸極	神奈川県 川崎市	2025. 01. 15
令和6年度木材産業人材育成事業に係る木材産業技術者研修	徳島県木材協同組合連合会	支所長 伊神裕司	徳島県 徳島市	2025. 01. 22
南種子町西濱山国有林の海岸防災林において樹木の枯死等があり、実態把握及び対策検討にかかる現地調査	九州森林管理局	チーム長（生物多様性担当） 佐山勝彦	鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2025. 01. 23～ 1. 24
令和6年度さのこグループ試験研究アドバイザー会議出席	大分県農林水産研究指導センター	森林微生物管理研究グループ長 木下晃彦	大分県 豊後大野市	2025. 01. 27～ 1. 28
「令和6年度宮崎県木材利用技術センター研究成果報告会」における基調講演	宮崎県木材利用技術センター	支所長 伊神裕司	宮崎県 都城市	2025. 01. 29
樹木医学会第1回理事会出席	樹木医学会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2025. 01. 29
令和6年度クリハラリス防除計画策定事業委託業務第2回専門家ヒアリング	和歌山県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	オンライン	2025. 02. 03
九州中南部エリア・アライグマ防除戦略検討会議出席	一般財団法人 自然環境研究センター	森林動物研究グループ長 安田雅俊	オンライン	2025. 02. 03
令和6年度作業安全強化促進支援事業検討会議（第4回）出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2025. 02. 05

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
令和6年度木材加工技能実習・合同委員会（第4回）出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2025. 02. 05
令和6年度木材産業における外国人材の受入れに関する委託事業検討会（第4回）出席	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2025. 02. 05
令和6年度第2回九州森林管理局保護林管理委員会出席	九州森林管理局	支所長 伊神裕司 森林生態系研究グループ 山川博美	熊本市	2025. 02. 06
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける現地調査等への出席助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2025. 02. 06
第3回大径材利用戦略策定会議及びスギ大径材の最適な木取り検討委員会出席	一般社団法人 高知県木材協会	支所長 伊神裕司	高知県 高知市	2025. 02. 07
令和6年度クリハラリス生息状況調査業務等に係る防除対策会議出席	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2025. 02. 13
「令和6年度森林整備事業における補助金の申請・検査のデジタル化に向けたガイドライン作成等委託事業」第三回事業推進委員会出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2025. 02. 14
くまもと林業大学校【長期課程】のシラバス（授業計画）等の評価に係る外部有識者会議の開催について	熊本県	支所長 伊神裕司	熊本市	2025. 02. 14
樹木医学会106回編集会議出席	樹木医学会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	オンライン	2025. 02. 17
樹木医学会106回編集会議出席	樹木医学会	森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2025. 02. 17
第6回大分県カモシカ保護管理事業推進協議会出席	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2025. 02. 20
令和6年度九州森林管理局事業評価技術検討会（令和7年度新規採択事業に係る事前評価）出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2025. 02. 26
令和6年度地域管理経営計画等の策定及び変更に係る有識者懇談会出席	九州森林管理局	支所長 伊神裕司	熊本市	2025. 03. 04
本会において、地球温暖化と桜の開花、また、高齢化や衰弱化の危機にさらされている桜の現状についての講演	鹿児島県経済同友会	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	鹿児島県 鹿児島市	2025. 03. 04
「製材JASの格付け率向上に資する検査方法案の検討」事業第3回検討委員会の開催について	一般社団法人 全国木材組合連合会	支所長 伊神裕司	オンライン	2025. 03. 07
北薩森林管理署保護林事業に係る現地調査への助言	北薩森林管理署	森林生態系研究グループ 金谷整一	鹿児島県 薩摩郡 さつま町	2025. 03. 10
令和6年度白髪岳自然環境保全地域生態系維持回復事業実施計画策定に関する検討会への出席	株式会社一成 （受託：環境省）	森林生態系研究グループ長 野宮治人	熊本県 球磨郡 あさぎり町	2025. 03. 12
持続可能な森林造成支援システムの構築事業検討委員会（第2回）	森林資源研究センター	チーム長（土壌環境評価担当） 稲垣昌宏	オンライン	2025. 03. 13
浜松市クリハラリス対策協議会第10回会議出席	浜松市	森林動物研究グループ長 安田雅俊	静岡県 浜松市	2025. 03. 19

用務	依頼者	担当者 所属 氏名	用務地	出張期間
第2回古座川町桜を活かした町づくり推進会議出席	古座川町	産学官民連携推進調整監 勝木俊雄	和歌山県 東牟婁郡 古座川町	2025. 03. 21

受託研修受入

研修内容	受講者 所属 氏名	期 間	研修指導者
次世代シーケンサーを用いたエノキタケの耐病性遺伝子領域の網羅的探索	福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センターバイオマス部 中田富美	2024. 06. 03～ 2024. 08. 30	森林微生物管理研究グループ 木下晃彦 中村慎崇
野生動物の解剖	岡山理科大学獣医学部獣医学科 野生動物学講座講師 奥田ゆう	2024. 06. 08～ 2024. 06. 10	森林動物研究グループ 安田雅俊
野生動物の解剖	岡山理科大学獣医学部獣医学科 野生動物学講座学生 多田英里 河村晃希	2024. 06. 08～ 2024. 06. 10	森林動物研究グループ 安田雅俊

海外派遣・出張

所 属 氏 名	用 務(行き先)	期 間	経費負担
森林動物研究グループ 安田 雅俊	東京都立大学の要請による熱帯雨林の生物多様性調査（バーチャルハンティング現地試験およびソーシャルプログラム）への助言（マレーシア）	2024. 5. 24～ 2024. 5. 29	東京都公立大学法人東京都立大学（受託出張）
森林生態系研究グループ 鳥山 淳平	環境省・環境研究総合推進費戦略的研究開発領域（Ⅰ）S-18「林業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価」の研究成果の発表と関連研究聴講のための国際林業研究機関連合世界大会の参加（スウェーデン）	2024. 6. 22～ 2024. 7. 1	政府等受託事業（環境省・環境研究総合推進費）
山地防災研究グループ 黒川 潮	林野庁補助事業「森林技術国際展開支援事業」における現地調査およびカウンターパートとの打合せ（ベトナム）	2024. 6. 10～ 2024. 6. 21	林野庁補助事業
チーム長（土壌環境評価担当） 稲垣 昌宏	林野庁・森林吸収源インベントリ情報整備事業による「アジアにおける温室効果ガスインベントリ整備に関するワークショップ」参加（マレーシア）	2024. 7. 9～ 2024. 7. 13	林野庁・森林吸収源インベントリ情報整備事業
森林微生物管理研究グループ 安藤 裕萌	JST/JICA地球規模課題対応国際技術協力課題「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発」の一環として、京都大学市岡孝朗教授の依頼により、サラワク州内の熱帯林における子囊菌類及び微小菌類等の生物多様性調査（マレーシア）	2024. 8. 10～ 2024. 8. 24	国立大学法人京都大学大学院（受託出張）
森林生態系研究グループ 森 大喜	科学研究費補助金「酵素反応を考慮した土壌炭素分解モデル構築に向けて～酸化酵素活性の制御要因の探索～」達成のため、酵素のターンオーバーに関する議論（大韓民国）	2024. 9. 24～ 2024. 9. 26	科学研究費補助金
森林資源管理研究グループ 笹田敬太郎	韓国森林行政学会の要請による韓国森林行政学会秋季セミナー国際分科会への出席・報告（大韓民国）	2024. 10. 24～ 2024. 10. 26	韓国森林行政学会（受託出張）
森林生態系研究グループ 森 大喜	林野庁補助事業「森林技術国際展開支援事業」における高潮被害に対するマングローブ林の沿岸域防災・減災機能の評価のための施肥試験調査・バイオマス調査およびカウンターパートとの研究打合せ（ベトナム）	2024. 10. 30～ 2024. 11. 9	林野庁補助事業
山地防災研究グループ 壁谷 直記	科学研究費補助金「大気中のCO2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？」推進のための現地調査、カウンターパートとの打合せ（カンボジア）	2024. 11. 22～ 2024. 12. 2	科学研究費補助金
森林生態系研究グループ 鳥山 淳平	環境省・環境研究総合推進費戦略的研究開発領域（Ⅰ）S-18「林業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価」の研究成果を日本-台湾気候変動影響および適応策に関するワークショップにおいて発表、調査地視察（中華民国（台湾））	2025. 2. 9～ 2025. 2. 12	政府等受託事業（環境省・環境研究総合推進費）

諸会議

会 議 名	開催日	主 催	開催場所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（保護専門部会）	2024. 5. 14～ 2024. 5. 15	九州支所	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（育林・経営専門部会）	2024. 5. 15～ 2024. 5. 16	九州支所	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（育種専門部会）	2024. 5. 16～ 2024. 5. 17	九州支所	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育種部会次世代育種戦略分科会（第1回）	2024. 5. 17	九州支所	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（特産専門部会）	2024. 5. 16～ 2024. 5. 17	九州支所	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（木材加工専門部会）	2024. 5. 21～ 2024. 5. 22	九州支所	佐賀県林業試験場（佐賀県佐賀市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会場所長会議	2024. 7. 22～ 2024. 7. 23	九州支所	九州支所
森林研究・技術開発推進九州ブロック会議（全体会議、研究分科会）	2024. 10. 22	林野庁 森林総合研究所	九州森林管理局（熊本県熊本市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育種部会次世代育種戦略分科会（第2回）	2024. 10. 23	九州支所	九州森林管理局（熊本県熊本市）
九州林政連絡協議会（第109回）	2024. 11. 12～ 2024. 11. 13	九州森林管理局	那覇商工会議所（沖縄県那覇市）ほか
九州地区林業試験研究機関連絡協議会特産部会シイタケ分科会	2024. 11. 17～ 2024. 11. 18	九州支所	（株）加藤えのき（宮崎県宮崎市）ほか
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育林・経営部会人工林管理分科会	2024. 11. 26～ 2024. 11. 27	九州支所	県庁防災庁舎（宮崎県宮崎市）ほか
九州支所業務報告会	2024. 12. 3	九州支所	九州支所
九州地域評議会	2025. 2. 4	九州支所	九州支所
交付金プロジェクト「人工林伐採跡」研究推進評価会議	2025. 2. 10	九州支所	九州支所
九州森林技術開発協議会	2025. 3. 6	九州支所	九州森林管理局（熊本県熊本市）

当所職員研修

研 修 名	受講者 所属 氏名	期 間	実 施 機 関
安全運転管理者	佐藤 温	2024. 05. 14～ 2024. 05. 14	熊本県公安委員会
令和 6 年度農研機構チーム長等研修	戸石 亮	2024. 05. 19～ 2024. 05. 19	(国研) 農業食品産業技術総合研究機構
令和 6 年度農研機構全職種管理者研修	佐藤 温	2024. 05. 24～ 2024. 05. 24	(国研) 農業食品産業技術総合研究機構
刈払機作業安全衛生教育	山岸 極	2024. 07. 30～ 2024. 07. 30	コベルコ教習所 (株)
第 6 2 回政府関係法人会計事務職員研修	串田 夏基	2024. 10. 02～ 2024. 11. 15	財務省
図書館等職員著作権実務講習会	串田 夏基	2025. 01. 30～ 2025. 01. 30	文化庁

図書刊行物の収書数と蔵書数

(単位：冊)

区分	単行書		逐次刊行書		その他資料
	和書	洋書	和書	洋書	
5年度 収書数	190	2	216 (種)	7 (種)	3
5年度 蔵書数	11,587	1,938	9,271	3,644	9,404

支所視察見学者

(2024年4月1日～2025年3月31日)

国	5 名	国外	47 名
都道府県	12 名		
林業団体	27 名		
一般	206 名		
学校関係	117 名		
国内合計	367 名	総合計	414 名

2023(令和5)年4月から森の展示館は平日のみ事前予約制で開館

森林教室「立田山森のセミナー」

○第77回

開催日：令和6年8月3日（土）

テーマ：スズメバチとのつきあい方

参加者：8名

講師：森林動物研究グループ(昆虫)

概要：「スズメバチを知る(講演)、観察する(標本)、うまくつきあう(被害対策)」と題し、スズメバチの整体や行動について学びました。



○第78回

開催日：令和7年2月1日（土）

テーマ：立田山森の動物調査隊

参加者：14名

講師：森林動物研究グループ(鳥獣)

概要：立田山に暮らす森の動物について座学で解説した後、実際に野外で調査体験をして頂き、双眼鏡の使い方、鳥や動物の識別方法、自動撮影カメラを使った調査などを体験していただきました。



○第79回

開催日：令和7年3月8日（土）

テーマ：シイタケの原木栽培を体験してみよう！

参加者：11名

講師：森林微生物管理研究グループ(特産)

概要：私たち日本人が古くから親しんできた「しいたけ」について、セミナーでは、しいたけの基本を知っていただき、原木へのコマ打ちを体験していただきました。



森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時： 令和6年11月29日（水）
開催場所： くまもと県民交流館10階パレオホール（熊本市中央区手取本町8－9）
配信期間： 令和7年1月1日（金）～ 令和7年12月31日（土）
配信場所： YouTube（森林総研チャンネル）
テーマ： ワクワクする！森林（もり）の博士が語る科学の魅力



講演

○ムササビとモモンガの春：得意なことで動物の生態を調べよう

森林総合研究所九州支所 鈴木 圭

野生動物の生態を調べる方法はたくさんあります。ここでは直接観察、観察カメラ、文献収集という3つの方法で明らかにしたムササビとモモンガの繁殖について解説します。みなさんはどんな方法で野生動物の調査をしたいかな？

○森と水辺をつなぐトンボの生態学

森林総合研究所九州支所 東川 航

日本に生息する約200種のトンボのうち、半数以上が生息地に森林を必要とすることが分かっています。しかし、森林の中でトンボを見つけるのは難しく、森林とトンボの関係はよく分かっていません。本研究では、夏に森林を利用する赤トンボの個体数と周囲の森林面積との関係を調査し、赤トンボが夏に利用する森林の条件を推定しました。

○林業研究への生態学的アプローチ： スギと雑草木との闘い

森林総合研究所九州支所 山岸 極

林業を行う中で、下刈り（植えたばかりの時期に植えた木の周りに生えてくる草木を除去する作業）は最も労力とコストがかかる作業であり、下刈りの省力化やコスト削減は重要な課題です。本講演では、下刈りの省力化およびコストの削減を目的とした下刈り回数の削減方法を模索する中で得られた成果をご紹介します。

○樹の病： 苗木生産を脅かす菌類

森林総合研究所九州支所 安藤 裕萌

再造林に向けて安定的な苗木生産が求められている中、苗木生産を脅かす菌類による病気の拡大が危惧されています。スギの苗木生産で最も警戒が必要な病気である「赤枯病」は、症状が類似する他の病気と判別が難しく、防除に使用できる薬剤が少ないという問題を抱えています。これらを解決するため、迅速な診断手法と、有効な防除薬剤の探索を行いました。

○国産トリュフ発生地を調べて分かりつつあること

森林総合研究所九州支所 中村 慎崇

当研究所では、国産トリュフの栽培方法の確立を目指して研究を進め、2022年の秋に初めて国内の調査地で国産白色トリュフ（ホンセイヨウシヨウロ）を発生させることに成功しました。このとき、調査地内では何が起こっていたのでしょうか？本研究では、発生したトリュフの解析からその交配のパターンを明らかにしました。

○熱帯林の土に棲む微生物たち： リン不足の真相を追え！

森林総合研究所九州支所 森 大喜

豊かな熱帯林の樹木を支える土は、一見すると養分が豊富そうですが、実際には養分が少なく、樹木の成長には特にリンが不足しています。熱帯林の土には微生物が棲んでいますが、これらの微生物もまたリンが不足していると考えられました。本研究では、その学説に反論し、微生物に不足しているのはリンではなく炭素であるとの新たな仮説を唱えます。

諸行事

○熊本市立桜山中学校職場体験学習「ナイストライ」

- ・開催日時： 令和6年7月9日（火）～7月11日（木）
- ・開催場所： 九州支所
- ・概要： 2名の生徒が、試験研究及び補助業務を体験した。



○九州農政局主催(オンライン)：消費者の部屋－夏休み特別イベントー 「しっとと？国のお仕事～」

- ・開催日時： 令和6年7月19日（金）～8月30日（金）
- ・開催場所： オンライン
- ・概要： オンラインサイトにおいて「押し葉を作ってみよう」動画ほか5点＋森林総研紹介動画（YouTube）を提供した。



○九州農政局主催：消費者の部屋－夏休み特別イベントー 「しっとと？国のお仕事～きなっせ！夏休み見学デー」

- ・開催日時： 令和6年7月31日（水）～8月1日（木）
- ・開催場所： 熊本地方合同庁舎A棟（熊本県熊本市）
- ・概要： 「浮かべてみよう！重い木 軽い木」と題して九州支所として出展した。



○消費者の部屋－特別展示－

- ・開催日時： 令和6年10月28日（月）～11月8日（金）
- ・開催場所： 九州農政局「消費者の部屋」／フードパル熊本（熊本県熊本市）
- ・概要： 「長期観測でわかる森林のこれまでとこれから」と題し、長期観測に焦点を当て、長年にわたって当研究所で観測を行っている森林に関するさまざまなデータのもつ意味と森林整備について紹介した。



○森林・林業の技術交流会発表大会

- ・開催日時： 令和6年11月7日（木）～11月8日（金）
- ・開催場所： くまもと県民交流館パレア（熊本県熊本市）
- ・概要： 九州森林管理局主催で開催され、支所長が審査委員長として出席した。

○森林・林業学習会（森林整備センター九州整備局熊本水源林整備事務所主催）

- ・開催日時： 令和7年2月20日（木）
- ・開催場所： 黒肥地小学校（熊本県多良木町）
- ・概要： 熊本水源林整備事務所主催開催された森林・林業学習会において、産官学民連携推進調整監・勝木俊雄が講師として参加した。

令和6年度九州地域評議会報告

開催日時： 令和7年2月4日（火） 13：30 ～ 17：15
開催場所： 九州支所会議室

評議会委員

合原 万貴	マルマタ林業株式会社 取締役
藤掛 一郎	宮崎大学農学部 教授
梅木 洋一	九州森林管理局 業務管理官

出席者

九州支所： 支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監
チーム長（3）、グループ長（5）、総務課長、成果発表者
九州育種場： 場長、育種課長
九州整備局： 局長
事務局： 九州支所地域連携推進室長

各機関からの概要報告および研究成果の紹介

- 1) 九州支所
概要報告（支所長）
主な研究成果の報告
○生物多様性に配慮した単木管理型人工林施業技術
（森林生態系研究グループ 八木 貴信）
○森林の地下部炭素量の長期モニタリング
（チーム長 稲垣 昌宏）
○森林は雨が強いときほど多くの雨水を蒸発させる
（山地防災研究グループ 村上 茂樹）
- 2) 九州育種場
概要報告（場長）
主な研究成果の報告（育種課長）
○エリートツリー特性表 九州育種基本区・スギver. 1.0の公表
（育種課長 千吉良 治）
- 3) 九州整備局
概要報告（局長）

概要報告および研究成果の紹介に関する主な意見・質疑応答

- 1) 九州支所
（合原委員）
ご報告いただいた単木管理型施業技術はヒノキにも適用可能か？
（当方）
樹種による違いはあるが、ヒノキであれば適用可能と思われる。
（合原委員）
植栽密度は？
（当方）
試験地は2000本/haである。
（合原委員）
土壌炭素量の1か所の測定時間はどれくらいか？また、土壌崩壊は土壌炭素量の減少につながると考えて良いか？
（当方）
現地での作業は1日かかりであり、さらに研究室に持ち帰って分析するまでには相当な日

数を要する。石は炭素が0という評価になり土壌崩壊は土壌炭素量の減少につながるので、災害が土壌炭素量に及ぼす影響についても調べている。

(合原委員)

雨の直後に森林の上にモヤッと白くなっているのが遮断蒸発か？

(当方)

その通りである。

(藤掛委員)

単木管理型施業技術を適用するとどんな樹種との混交林になるのか？また、純林と比較した生物多様性の違いは？

(当方)

今回の調査地だとカラスザンショウやヌルデ、アカメガシワなどの先駆性落葉樹が中心であったが、条件によってどのような樹種が生育するのかは予測できない。まったく入らないケースも含めて柔軟に対応できるのが本手法の良い所だ。生物多様性についてはまだ調査結果が出ていない。

(藤掛委員)

下刈りはどのようにやったのか？

(当方)

今回の試験では刈込鋏を使ったが、通常の刈払い機でも可能である。

(藤掛委員)

現状、土壌炭素量はモデルによって評価していると認識しているが、今後は実測値に基づいた評価になっていくのか？

(当方)

実測値に基づいた評価について、行政部局と検討しているところである。

(藤掛委員)

土壌炭素量に森林タイプの影響はあるのか？

(当方)

枯死木あるいは施業によって切り捨て間伐材や根株などが供給されることで炭素量が増えることもあるが、他の要因による影響の方が大きい。

(梅木委員)

立木と雨といとの位置(距離)関係で林内雨の回収状況に違いが出るのでは？

(当方)

雨といの長さと植栽間隔との関係から1つの雨といは複数の立木をカバーしており、立木と雨といとの位置関係が林内雨の回収状況に影響しない実験系になっている。

2) 九州育種場

(合原委員)

1年程度の余裕をもって苗木の予約をして受け取るというシステムで特定母樹が得られると良いと思うが、当方のように小さな事業者では1年先の伐採・植栽の予定を立てることができず、苗木品種の指定をした上での特定母樹の使用ができていない状況である。

(合原委員)

品種ごとの土壌との相性などの指針があると良い。

(当方)

すべての品種について指針を示すのは難しい状況であるが、例えば同一品種であれば九州の北部、中央部、南部で成長に大きな違いはないというデータもあるので、そうした大雑把なくくりでの品種選定をお願いしたい。

(合原委員)

品種ごとの特性を苗木の価格に反映させる取り組みをお願いしたい。

(藤掛委員)

各県で今どんな品種に興味を持たれているか？

(当方)

福岡は低花粉品種、宮崎は成長の良い品種といった形で各県の意向がある。

(藤掛委員)

品種名について、従来の品種名とは別により正確な系統名を利用しているが大変わかりに

くい。愛称をつけないのか？

(当方)

育種場では現状まだ行っていないが、佐賀県が「サガンスギ」と命名した例もある。

3)九州整備局

(合原委員)

育成複層林事業は予算がしっかりしており実際に事業として成り立つと思うが、小規模林家にはやや大きな事業であり小さい事業設計もあると良いと思う。

(当方)

所有者の意向もあるが検討したい。

(藤掛委員)

水源林造成事業の伐期は？

(当方)

当初は50年伐期もあったが、今は80年以上。

(梅木委員)

水源林造成事業の造林者の内訳は？

(当方)

造林者は、森林組合や林業事業体など。

講評

(合原委員)

体系的な説明で各組織の取り組みが良く理解でき、森林に求められていることの多さをあらためて知ることができた。研究内容は初めて知ることが多かったが、実業の中で活かすにはこれまでと違う新しいことを現場作業者に伝えて技術力を高めていくことが重要であり、その難しさも認識している。育種に関しては、多くの品種があることに驚き学ぶことが多く、既に結果が出ている品種の導入を考えていきたい。品種や特性に関しては、素材生産者向けに結果を普及する機会があると良いと思う。水源林造成事業は補助金に縛られず、県のように予算が不安定になる事業に比べてまとまって動けるのでありがたい。

(藤掛委員)

森林総研の研究は、個々の力と組織が噛み合って進められており魅力的と感じた。育種場は、主伐再造林期に重要な役割を果たしており、これからもクロン林業の強みを活かしていただきたい。また、森林所有者に品種に関する認識が十分に伝わっていないので、正しい知識で引っ張っていただきたい。整備センターでは様々な事業を実施されていることがよくわかり、今後も研究者との連携を進め、今の時代に合った形で事業を展開してほしい。大学は人員が減少しており、宮崎大学と九州支所・九州育種場は連携協定を結んでいることもあるので、今後も学生の教育などにおいて連携していただけるとありがたい。

(梅木委員)

施業の低コスト化については国有林も様々な方法を試行しているがその評価ができておらず、また、切り捨て間伐と二酸化炭素の固定との関係についても説明に苦慮していた。本日の施業に関する報告、土壌炭素量に関する報告はそれらに答える形でデータとしてお示しいただきありがたい。また、雨水に関する実測に基づいた基礎研究によって、今後の観測やモデルの精緻化につながる方向性が見えた。エリートツリーの普及について全国と比較して九州は進んでおり、育種場の取り組みの成果と思う。整備センターは多様な事業をされており、本日の資料もわかりやすく水源林造成事業についても良く理解できた。シカ対策の中で、けもの道を考慮したブロックディフェンスは参考にしたい。

職員の異動

(転出)

6. 4. 1

塔村真一郎 九州支所長

根本成雄 九州支所地域連携推進室長

浜田雅代 九州支所総務課用度係長

横田康裕 九州支所主任研究員（森林資源管理研究グループ）

- 企画部研究企画科主任研究員
木材利用部門複合材料研究領域複合化研究室
併任
- 四国支所地域連携推進室長
- 林木育種センター九州育種場連絡調整課連絡
調整係長
- 林業経営部門林業経営・政策研究領域チーム
長（地域資源活用担当）

(採用)

6. 4. 1

小村洋志 九州支所地域連携推進室研究情報専門職

- ← （国研）農業・食品産業技術総合研究機構本
部管理本部九州沖縄管理部会計課資産管理
チーム主査

(転入)

6. 4. 1

伊神裕司 九州支所長

佐藤温 九州支所総務課長

園田藍 九州支所総務課（用度係）

飯田啓達 九州支所総務課用度係長

福本桂子 九州支所森林資源管理研究グループ

- ← 四国支所産学官民連携推進調整監
- ← 総務部総務課総務管理主幹
- ← 総務部職員課
- ← 林木育種センター九州育種場遺伝資源管理課
増殖保存係長
- ← 四国支所流域森林保全研究グループ

(配置換)

6. 4. 1

戸石亮 九州支所地域連携推進室長

日高健治 九州支所総務課業務推進役（総務担当）

高橋與明 九州支所森林資源管理研究グループ長

近藤洋史 九州支所主任研究員（森林資源管理研究グループ）

山岸極 九州支所主任研究員（森林生態系研究グループ）

福本桂子 九州支所主任研究員（森林資源管理研究グループ）

中村慎崇 職場復帰

- ← 九州支所総務課課長補佐
- ← 九州支所総務課長
- ← 九州支所主任研究員（森林資源管理研究グループ）
- ← 九州支所森林資源管理研究グループ長
- ← 九州支所森林生態系研究グループ
- ← 九州支所森林資源管理研究グループ

(転入)

6. 10. 1

笹田敬太郎 九州支所主任研究員（森林資源管理研究グループ）

- ← 林業研究部門林業経営・政策研究領域主任研
究員（林業システム研究室）

(退職)

7. 3. 31

松尾和宏 九州支所総務課庶務係長

→ (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構本部
管理本部九州沖縄管理部会計課会計チーム
主査

(定年退職)

7. 3. 31

日高健治 九州支所総務課業務推進役 (総務担当)

近藤洋史 九州支所主任研究員 (森林資源管理研究グループ)

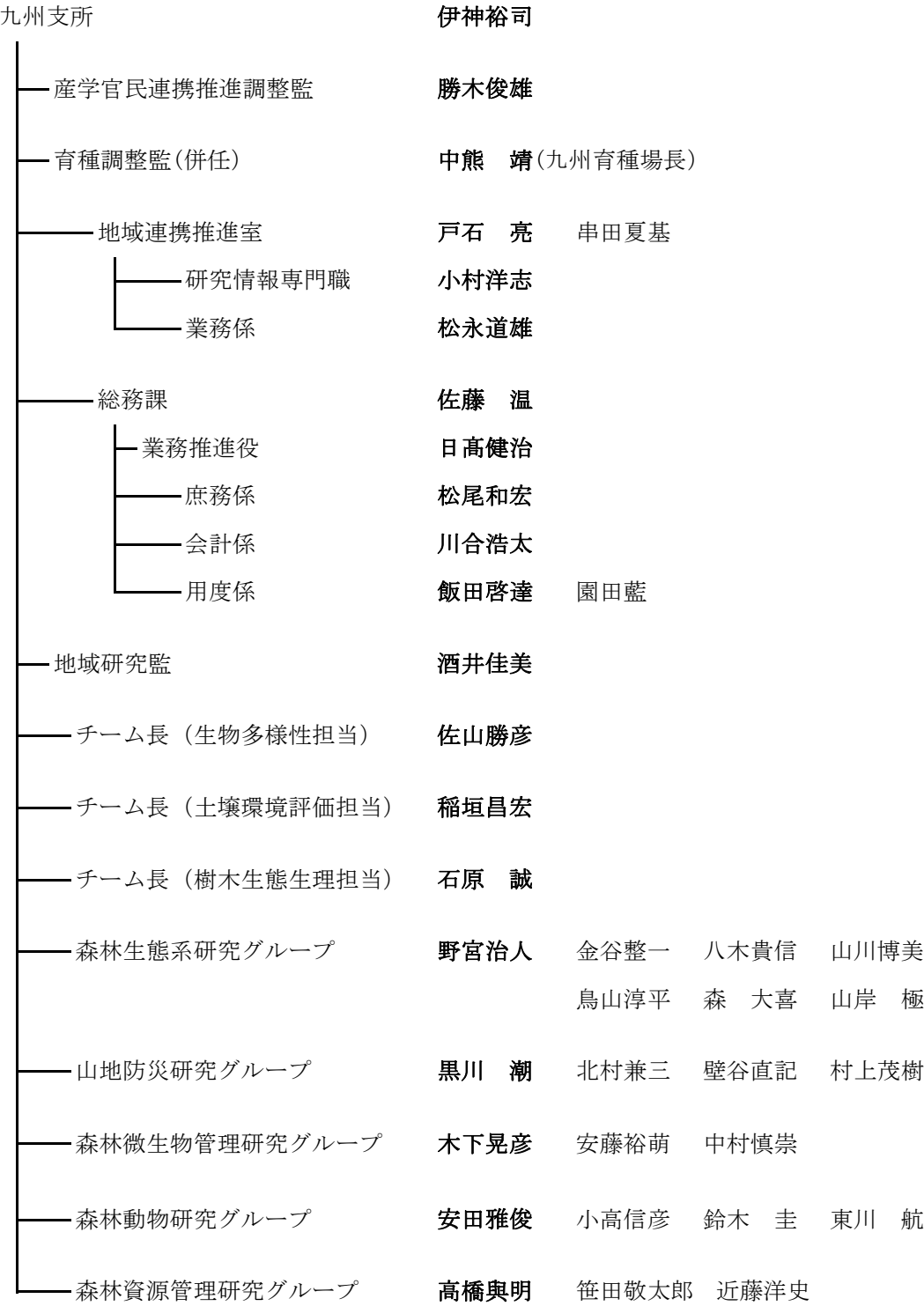
(任期更新 (フルタイム勤務))

7. 3. 31

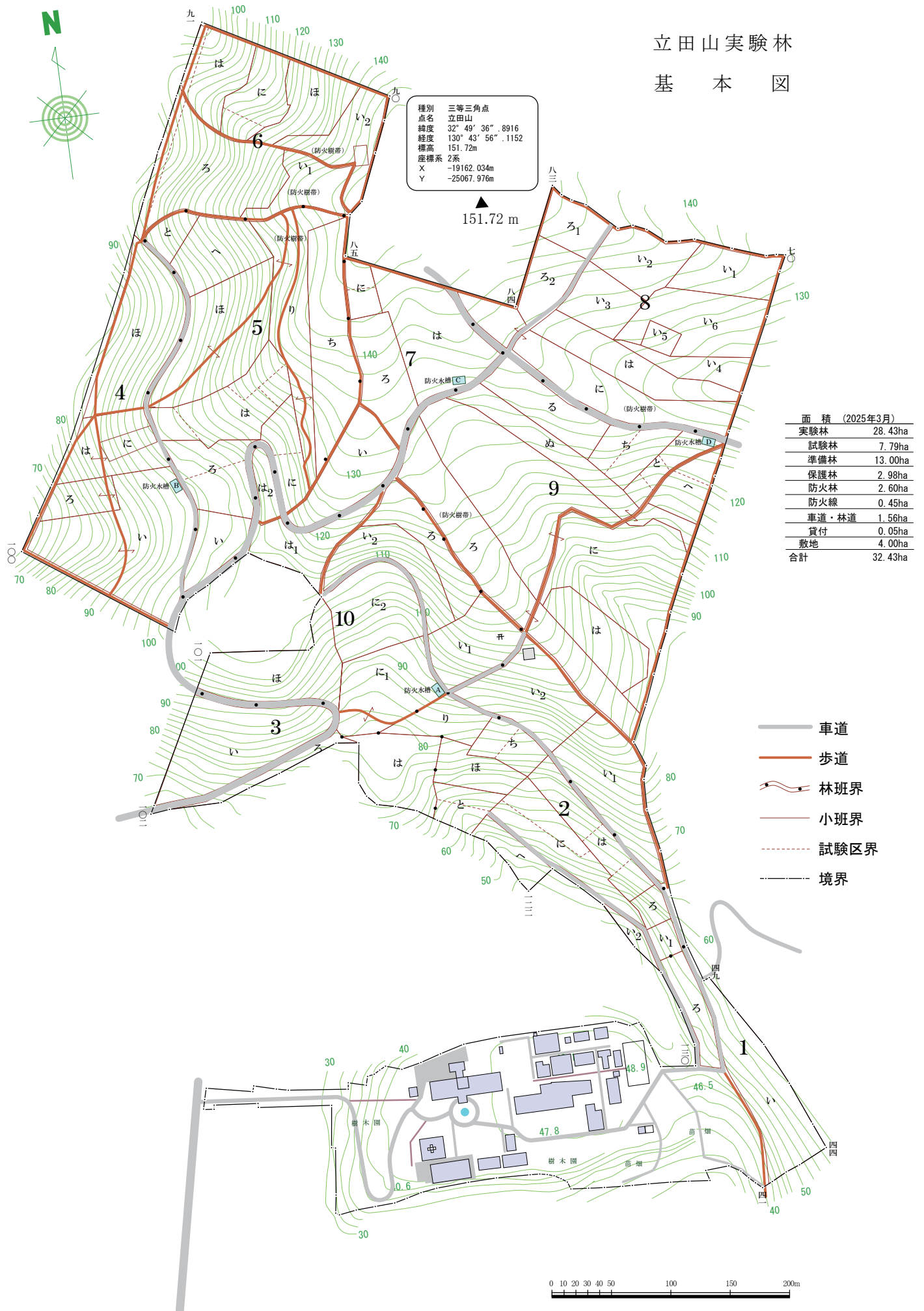
村上茂樹 九州支所山地防災研究グループ
再雇用研究専門員 (フルタイム勤務)

組織図

令和7年3月31日現在
太字は所属の長



立田山実験林 基本図



立田山実験林の現況

(令和7年3月現在)

林小班	面積(ha)	林班名	(設定年度)
1 い	0.66	有用樹種成長比較試験林 (準備林)	(昭35)
ろ1	0.10	有用樹種成長比較試験林 (準備林)	(昭37)
ろ2	0.06	イスノキ遺伝資源保存試験林	(平22)
計	0.82		
2 い1	0.09	広葉樹更新試験林 (準備林)	(平2)
い2	0.05	広葉樹害虫生態調査試験林 (準備林)	(平元)
ろ	0.10	早生樹種成長比較試験林 (準備林)	(昭36)
は	0.53	針・広混交並びに葉木・五葉松植栽試験林	(平元)
に	0.39	スギ病害・広葉樹害虫調査試験林 (準備林)	(昭54)
ほ	0.16	針・広混交林害虫動態調査試験林 (準備林)	(平元)
へ	0.11	スギ在来品種成長比較・スギ病害試験林 (準備林)	(昭49)
と	0.08	スギ虫害調査試験林・ヒゴツバキ品種集植地 (準備林)	(昭57・平元)
ち	0.13	コナラ・キリ等広葉樹試験林 (準備林)	(昭49)
り	0.16	広葉樹病害試験林	(昭35)
計	1.80		
3 い	0.85	広葉樹及び下床植生遷移調査試験林 (保護林)	(平元)
ろ	0.13	ナギほか下床植生遷移調査試験林 (保護林)	(昭38)
は	0.53	表層土壌水分動態・森林炭素循環試験林 (準備林)	(平12)
計	1.51		
4 い	1.02	広葉樹害虫被害調査試験林 (準備林)	(平11)
ろ	0.29	キリ植栽試験林 (準備林)	(平4)
は	0.36	ヒノキ成長比較試験林 (準備林)	(昭31)
に	0.09	クヌギ植栽試験林 (準備林)	(平元)
ほ	0.73	ヒノキ間伐試験林	(昭31)
計	2.49		
5 い	0.15	サクラ植栽試験林 (準備林)	(平3)
ろ	0.30	ケヤキ・カシ類及びヒノキ広葉樹混交試験林 (準備林)	(昭46)
は	0.50	ヒノキ系統別・クヌギ、ニマイガワ菌試験林 (保護林)	(昭63)
に	0.26	クヌギ植栽試験林 (準備林)	(昭43)
ほ	0.79	広葉樹自生更新調査試験林 (準備林)	(平4)
へ	0.35	広葉樹植栽試験林 (準備林)	(平6)
と	0.10	リキダマツ・ツバキ植栽試験林 (準備林)	(昭43)
ち	0.63	森林表層土壌水分動態試験林	(平元)
り	0.55	防火林	(昭30)
計	3.63		
6 い1	0.27	防火林	(昭30)
い2	0.33	防火林	(昭63)
ろ	0.75	落葉樹混植景観造林試験林	(昭63)
は	0.29	イチイガシ若齢木育成試験林 (準備林)	(昭63)
に	0.29	スギ・ヒノキ病害、表層土壌水分動態試験林 (準備林)	(昭63)
ほ	0.36	シイタケ原木造林試験林	(昭63)
計	2.29		
7 い	0.48	広葉樹自然生態調査試験林 (保護林)	(平元)
ろ1	0.46	ブナ科見本林	(平22)
ろ2	0.02	ヤクタネゴヨウ自生地外保存林	(平2)
は	0.64	落葉広葉樹成長比較試験林 (保護林)	(昭30)
に	0.14	森林土壌の炭素循環及び根系の解明試験林 (準備林)	(昭44)
計	1.74		

(令和7年3月現在)

林小班	面積(ha)	林班名	(設定年度)
8	い1	マツ材線虫病試験林(準備林)	(昭54)
	い2	マツ材線虫病抵抗性マツ植栽試験林	(昭54)
	い3	広葉樹自然生態調査試験林(準備林)	(平5)
	い4	ヒノキ造林試験林(準備林)	(昭27)
	い5	スギ病害試験林(準備林)	(平元)
	い6	広葉樹自然生態調査試験林(準備林)	(平19)
	ろ1	ヒノキ加害性昆虫の検討試験林(準備林)	(平元)
	ろ2	広葉樹自然生態調査試験林(準備林)	(平19)
	は	森林炭素循環試験林(準備林)	(平11)
	に	防火林	(昭30)
計	3.10		
9	い1	コジイ二次林動態観測試験林(立田山ヤエクチナシ自生地)	(昭40)
	い2	酸性雨モニタリング試験林	(平2)
	ろ	防火林	(昭30)
	は	シイタケほだ場(準備林)	(昭43)
	に	ヒノキ収穫試験林	(昭31)
	へ	スギ病害試験林(準備林)	(平元)
	と	害虫生態調査試験林(準備林)	(平元)
	ち	常緑広葉樹害虫調査試験林(準備林)	(平元)
	ぬ	カシ類植栽成長比較試験林(準備林)	(昭32)
	る	コナラ成長比較試験林(準備林)	(昭33)
計	5.49		
10	い1	シイ更新試験地(準備林)	(昭61)
	い2	シイ用材林誘導試験林(準備林)	(昭40)
	ろ	外国マツ成長比較試験林(準備林)	(昭38)
	は1	広葉樹自然生態調査試験林(保護林)	(平元)
	は2	イスノキ植栽成長量試験林(準備林)	(昭38)
	に1	早生樹育成試験林	(平29)
	に2	幼齡林強度間伐試験	(平23)
	ほ	スギ病害試験林(準備林)	(平元)
計	3.50		
その他	1.56	車道・林道	
	0.45	防火線	
	0.05	貸付地	
計	2.06		
合計	28.43		

試験地一覧表

当支所の研究を遂行するための試験地が九州一円に設定されている。これらは調査期間が長期にわたり、調査回数も1年に数回のものから何年かに1回のものまで様々である。現在継続調査中の試験地は次表のとおりである。

(令和7年3月現在)

グループ (G)	試験地の名称	位置			樹種	面積 (ha)	設定年
		管理署等	国有林名	林小班			
山地防災G	去川森林理水試験地	宮崎	去川	261へ、と、と1、264と、ち	スギ シイ タブノキ	23.90	昭32
山地防災G	鹿北流域試験地	熊本	長生	51に、ほ、へ、と、ち、り、ぬ	スギ 広葉樹	12.70	平2
生態系G	常緑広葉樹林動態解明試験地	宮崎	中尾	2093 い、ろ	常緑広葉樹類	109.00	平4
生態系G	常緑広葉樹林孤立林分試験地	北薩	荒平	39ん	常緑広葉樹類	3.43	平12
チーム長（土壌資源管理担当） 生態系G	酸性雨等森林衰退モニタリング試験地	熊本南部	樺木	1122い	ブナ モミ	36.00	平20
生態系G	常緑広葉樹老齢二次林試験地	宮崎	蜷尻	228に	常緑広葉樹類	1.00	平26
生態系G	新燃岳噴火跡森林動態観測試験地	鹿児島 宮崎森林管理署都城支署	霧島山 夷守	1080た、1085よ、よ1、2094へ	アカマツ スギ	0.75	平26
生態系G	スギ中苗を用いた低コストモデル実証試験地	熊本南部	西浦	21ろ	スギ	10.00	平29
生態系G	小萩国有林ヒノキ低密度植栽試験地	熊本署	小萩	170ろ2	ヒノキ	4.11	令4
生態系G	谷之城国有林スギ低密度植栽試験地	宮崎南部	谷之城	138い1	スギ	3.23	令4
生態系G	令和5年度低密度植栽試験地	宮崎森林管理署都城支署	猪之尾	2092い	スギ	1.60	令5
生態系G	令和6年度低密度植栽試験地	熊本署	吉原	41て	ヒノキ	3.64	令6
資源管理G	本田野収穫試験地	宮崎	本田野	65は、は1	ヒノキ	3.20	昭9
資源管理G	夏木収穫試験地	宮崎	夏木	2035ち	ヒノキ	4.29	昭11
資源管理G	尾鈴収穫試験地	西都児湯	尾鈴	1046や	ヒノキ	0.50	昭12
資源管理G	仁川第一号収穫試験地	熊本	仁川	184は	ヒノキ	0.36	昭23
資源管理G	久間横山収穫試験地	佐賀	久間横山	1044る、よ	ヒノキ スギ	2.64	昭25
資源管理G	端海野収穫試験地	熊本南部	端海野	2078ろ	ヒノキ	0.50	昭25
資源管理G	万膳第一号収穫試験地	鹿児島	万膳	1044け、1047ほ	ヒノキ	0.27	昭27
資源管理G	菊池水源収穫試験地	熊本	菊池水源	3か	スギ	1.00	昭34
資源管理G	河原谷収穫試験地	宮崎南部	河原谷	102そ	スギ	1.04	昭35
資源管理G	小石原収穫試験地	福岡	白石	2022そ	スギ	0.83	昭36
資源管理G	水無平収穫試験地	宮崎北部	水無平	2109へ	スギ	0.62	昭37
資源管理G	川添収穫試験地	鹿児島	川添	1033た	スギ	0.82	昭38
資源管理G	寺床第二収穫試験地	大分西部	寺床	218わ	スギ	0.97	昭41
資源管理G	鬼神収穫試験地	北薩	鬼神	39み	ヒノキ	1.17	昭42
資源管理G	西郷温泉岳収穫試験地	長崎	温泉岳	125ら	ヒノキ	1.01	昭43
資源管理G	西郷温泉岳収穫試験地	長崎	温泉岳	125な	スギ	1.02	昭48



令和 7 年版

森林総合研究所九州支所年報 第 3 7 号 (通算第 6 7 号)

編集・発行 森林総合研究所九州支所
〒860-0862 熊本市中央区黒髪 4 丁目11-16
TEL 096-343-3168 FAX 096-344-5054

発 行 日 令和 7 (2025)年10月

©2025 Forestry and Forest Products Research Institute

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所の許可を得てください。